

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必修科目として位置づけられている。学生はこれまでの既習の知識や技術の統合を図りながら、自己の課題の明確化と課題達成のための方法を検討し、実習計画を立案する。また、総合実習終了後にはその成果を論文としてまとめ、看護に対する考察を深めるということを課題としている。しかし、本年度はコロナ禍のため臨地実習は出来ない状況にあり、急速、文献検討を行うことにした。学生個々のテーマとする課題の明確化を図り、この間グループメンバーとディスカッションし、メンバー間で共有し合うことで、看護観や人間観、死生観の深まりを期待した。最終的に要約としてまとめ、自己の課題達成状況を明らかにした。これらの一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としての在り方についても広く主体的な修得を目指す。学生個々の課題や背景、そして進捗状況も違うことから、個別的関わりを持ち、方向づけと時間的配慮を行った。そして、計画立案、実践を言葉に置き換え、概念化し、まとめあげるという過程において、学生自身の達成感が持てるように関わった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	グループ6名の学生の到達状況は、平均点86.6点であった。全員80点台以上の評価を得ておりで90点台は4人いた。到達度は高く、主体的な学びが出来たと言える。到達度自己評価項目は4.2～4.8で平均4.5と肯定的評価を得ている。「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいという意欲をもつことができた」は4.8と高評価を示し、学修への動機づけとなった。情報検索は全員が行い主体的な学びを実践してる。先行文献検索を実践に活用することや自己の課題解決に向けた取り組みについては、自ら探求する姿勢や根拠をもとに立証していく過程、また現象を要約し、概念化していく段階を経験することにより、学びを深めたいという意欲にも繋がったと言える。授業の質評価は平均4.4で、学生の主体的参加が出来る形式となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上に位置づけ 看護総合演習は、看護総合実習の事前事後学習として位置づけられている。学生の希望により領域が選択され、自己の課題はこれまでの学修状況にも影響を受ける。自己の課題の明確化から始まる演習は学生の個々の重要な学びのプロセスと考えている。一定の評価を得たことから内容的妥当性に問題ないとする。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は既習の学修を統合し、看護実践能力を高め、今後も専門職として主体的に看護を探究する動き付けとなる科目である。成績評価、学習態度、等 概ね良好であったことからCP,カリキュラム上から内容の妥当性には問題はないとする。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性については問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この演習は自己の課題を明確化することから始まるため、授業の進め方は学生個々の進捗状況を確認し、グループメンバーの時間共有と情報交換、また個別的課題への問題解決に向けた助言など、学生の状況を把握しながら進めた。学生の個人差はあるものの、個人やグループ面接、グループ討議を通じ、その都度理解を得ながら個別対応により進めるた。文献検索等は時間もかかったが、全員が授業を受けるための準備を行い演習に臨んでいる。演習課題以外にも取り組んだ学生が3名いた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必須科目である。グループ全員が看護職を目指しており、社会人としての将来展望を見据え、これまでの実習経験から個別性のある看護をテーマとして掲げ、助言を受けながら各自の課題に取り組むことができた。現象を概念化し、論文としてまとめるプロセスにおいては学生の取り組みにばらつきがみられたが、状況を確認し、個別に対応することでほぼ達成できた。看護職としての専門性や実践者としてのステップが踏めるように、計画性を持ち、課題と深く向き合えるよう授業運営を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間の学びの集大成と位置づけられた「看護総合実習(看護管理)」に向けて、毎年、学生の自主的・主体的学習活動を軸にゼミナールを展開している。 コロナ禍であれ、今回も例年同様のプロセス（3年後期の学科長ORを基に、学生が自らの関心に基づいてゼミを選択・希望）を経てメンバーが決定していることから、受け入れる教員としては、当然、配置された学生は、本ゼミの趣旨を理解し、自らの意思で選択・集めたものと理解し、その認識を前提に学生と対峙した。 今回担当した学生7名の受講動機は、例年の「必修科目である」(100%)、「資格取得に必要である」(42.9%)、「関心のある内容である」(28.6%)に加え、「先輩に勧められた」(14.3%)も挙がっていた。また、ゼミを選択する際、7名中6名(85.7%)の学生が「シラバスの記載を参考にした」にもかかわらず、「あらかじめ授業の計画を立てた」者は僅か2名(28.6%)で、その者だけが「シラバスに沿って授業を受ける計画を立てた」り、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」りしていた。これらの結果から、グループ全体の傾向として、そもそも受動的あるいは他者依存的な態度・姿勢のまま本ゼミに臨んだ学生の割合が多かったのではないかと推察する。 「看護管理」というこれまでの実習とは全く異なる観点で「看護総合実習」を行うについては、医療関連法規、組織管理、医療安全管理など、大局的な見地から事象を見つめ考える力が求められる。学生が実習を企画するについても、必要な知識を得るための事前の「調べ学
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価について、項目(1)「自分なりの目標を達成した」(2.9/3.0←3.9/4.0)は昨年度を大きく下回り、学部、学科のそれにも及ばなかった。項目(2)～(10)のうち「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(3.1/3.0←4.1/4.0)、「職業選択の参考になった」(3.1/3.0←4.4/4.0)の2項目は平均値が中央値をわずかに上回っていたが、残り「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(3.1/4.0←4.3/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(3.4/5.0←4.1/4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(3.1/4.0←4.1/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(2.9/3.0←4.1/4.0)及び「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(2.7/3.0)の6項目は、平均値が中央値を下回っていた。「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(3.0/3.0←4.2/4.0)は同値であったが、いずれにしても、多くの項目が、従来とは全く異なる評価であった。「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(2.7/3.0)の評価が低いことは、コロナ禍で例年実習を依頼していた病院施設での臨地実習が困難となり、学内実習として実施せねばならなかったことから致し方なしと理解できるが、その他については、学生・教員間の認識のズレの大きさに唖然とする結果であった。 通常、看護総合演習の達成度評価は、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、技能表現(DP5)によって行うが、「看護総合実習」を学内実習とし					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	前述のとおり、今期受講生7名の受講動機は、「必修科目である」(100%)、「資格取得に必要である」(42.9%)、「関心のある内容である」(28.6%)及び「先輩に勧められた」(14.3%)であった。到達度自己評価は、「自分なりの目標を達成した」(2.9/3.0←3.9/4.0)以外、学部、学科のそれも含めて「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(3.1/3.0←4.1/4.0)、「職業選択の参考になった」(3.1/3.0←4.4/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(3.1/4.0←4.3/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(3.4/5.0←4.1/4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(3.1/4.0←4.1/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(2.9/3.0←4.1/4.0)及び「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(2.7/3.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(3.0/3.0←4.2/4.0)と、殆どの評価が前年度を大きく下回っており、従来とは全く異なる結果となっていた。コロナ禍の影響により「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(2.7/3.0)が低評価であることは理解できたとしても、その他については、学生-教員間の認識のズレの大きさに唖然とするばかりである。 当該科目の最終評価は、84.1±7.31点、最高93点、最低73点とし、総体的には、標準レベル以上にあると判断した。その理由は前項で述べた通りである。ただ、授業評価の学生の自由記述については、個々のゼミへの興味関心レベルの違い、チームへの協力度、役割意識、責任
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	4月以降に、複数ゼミ生が各論実習(学内実習)や教育実習を控えていたこともあり、本授業は変則的なスケジュールの下で進めていった。ただ、今年度は開始早々から「コロナ禍」という未曾有の事態に見舞われ、授業計画自体が二転三転したこともあって、結果的に、当初の予定は大幅に後方にずれ込むこととなった。就職試験準備、助産科進学準備、国家試験受験準備など、学生それぞれのスケジュールとの重なりを考えると、各学生には申し訳なく思っている。 ゼミの中核でもある「調べ学習」については、7名全員がインターネットのHP検索に拠っており、図書館利用は7名中6名、学術データベース検索は7名中4名のみであった。 ゼミ全般及びその後の実習も含めて、ゼミへの興味関心、チームへの協力、規律性、自身に課せられた課題の処理、役割遂行という点においても、4年生にして、この時期になって未だメンバーシップに欠ける学生が複数名おり、グループ活動自体が、全体として、発言する者の限られた、意見交換の少ない場となっていたように思う。ただ、討論の活発化や学びの深化を意図して教員が発言すると、それは「圧力」「威圧」と受け止められ、逆に「意見を言うのが怖かった」との反応で、期待した効果は得られなかった。今にして思えば、当時のゼミ中の何人かの学生の反応に合点がいくところでもある。ゼミ活動時のマインドについては、毎年、初回授業の折に、初めに学生に伝えることにしている。今年度「遠隔」授業であったせい(か?)定かではないが、今回、教員側のこうした要請に応えた学生は2～3名に限られ、これま
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年度の反省を踏まえ、以下を課題としてゼミに取り組みたい。 ①学生の学修レディネスを的確に把握する。併せて、社会人基礎力獲得上の各個人の課題を明確化する。 ②主体的・積極的な「学習」への取り組みを促すとともに、学生の自己肯定感が高まるよう支援する（認める、褒める）。 ③学生の「自立」を促しつつも、教員の「信頼・委任」を「放置」と誤認されることのないよう、これまでより多く、より具体的に助言・指導する。 ④学生がグループ学習活動に協働・連携して取り組めるよう、「対人」であれ「遠隔」であれ、相互に他者への気遣い、優しさが体现できるチームづくりを心がける。 ⑤学生が自ら「問い」を発し、「思考」し、その考えを「主張・発信」し、それを「共有」できる建設的な意見交換の場として、ゼミナールの活性化を図る。 ⑥最終学年生として、看護（＝対人援助）職に就く者として、社会人としての「自覚」と「行動」を促す。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生は今まで「患者と看護師」という視点から看護を学ぶ機会が多かったが、看護総合演習（看護管理）は、このような視点から病院全体の質やチーム医療という視点で看護を考えることが求められる。このためこの思考角度をスムーズに変えることができるよう、まずは「集中講義 看護マネジメント論」の授業との連動を心掛けた。集中講義の中では、看護マネジメントとは何か、組織とは何か、病院・看護の役割とは何か、チーム医療の必要性等を軸に、1対1ではなく、「病院全体を上空から見るとイメージ」をもつように指導し授業を行った。この講義終了後より、週に1回オンラインでゼミを開催し、学生主体でゼミを進行してもらいながらファシリテートを行い、また学生の理解の乏しい箇所に関しては、追加で講義を行うようにし、学生が特定機能病院の組織や医療・看護マネジメントを理解できるように努めた。このゼミを継続し、意見交換を図りながら実習計画書立案の支援を行い、8月下旬に実習先の看護部に実習計画書を提出することができ、学生は達成感を得ることができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生は4月～9月まで、各論実習や就職活動等との調整を図りながらも、「医療安全管理」「感染防止管理」「入院支援」「退院支援」「看護部運営」「病棟運営」という、新たな学習を週に1回以上は積極的にゼミを開催し、役割分担をしながら自己の課題を実践し準備を整えていた。各自が行ってきた課題はオンライン内で他のメンバーにプレゼンし、質問等を繰り返しながらグループダイナミクスを発揮して修正を重ねていた。図書館も全員が利用し予習・復習も密に行っており、このような自助努力が実習計画書完成と総合実習につながったと考える。実習はCOVID-19の影響で、病院内2時間、病院外施設内2時間の計4時間のみであったため、残り2時間は帰宅後のオンライン実習としたが、それでもこのCOVID-19の環境下で病院実習が行え、看護管理者から看護マネジメントの詳細をうかがえたことは素晴らしい経験になっていた。この結果が実習終了後に記載した実習報告書内に明確に記載されている。 総合演習は上記の意欲関心や態度面も総合的に評価し、84.9±8.0点（最高96点、最低75点）と昨年度よりも成績は向上している。学生による到達度自己評価は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4点と最も高く、それ以外の項目でも4.0点前後の到達を実感できており、看護総合演習（看護管理）のゼミ活動を通して多くの学びを得たと判断でき、また最後の実習報告書の記載にあたっては全学生が複数回報告書の修正を行っており、意欲・態度ともに問題はなかったと考える。また全員が遅刻欠席なくゼミによる演習活動を終了し、期限を厳守した報告書記載まで到達できたことから「達成された」と評価する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価では、看護の専門分野において、課題を検討する力の取得、学びを深める意欲、職業倫理やルール遵守、職業選択の参考において4.0点と高評価であった。一方で事象の理解する視点や考え方、的確な判断力、コミュニケーション力は4.0点までには到達できていない。これはやはりオンラインによる演習で実習以外では対面で学びを深めることができなかったことが要因の背景にはあると考える。しかし看護師がチーム内でリーダー的役割を発揮している重要な部署である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「病棟」について1年間学び、各自が学び思考したことを報告書内に記載することができたことから、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の平均点は全て4.4～4.9点であった。週に1回は2コマ程度のゼミを開催し、学生と意見交換等を行いながら学習支援を継続し、実習後も実習報告書作成の支援も行った。学生からの否定的意見はなく、コミュニケーションを図りながらゼミ運営を行い、看護管理の演習・実習の支援を行うことができたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生による授業の質評価では4.4～4.9点であった。学生は「医療安全管理」「感染防止管理」「入院支援」「退院支援」「看護部運営」「病棟運営」という、新たな学習を継続し、週に1回はゼミを開催し、図書館等を全員が利用し、日々予習・復習を行った。演習・実習の総合得点は84.9±8.0点（最高96点，最低75点）と、昨年度よりも向上し、グループダイナミクスや意欲関心、継続性といった側面では、オンラインという環境の中でも昨年の学生と遜色なく努力していた。学生による授業評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4点であることから、学びあるゼミによる演習活動であったと判断する。また質評価においても「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が4.9点であったため、学生を尊重したゼミ運営ができていたと考える。また実習後は報告書をまとめ冊子にして学生に配布することもでき、この4年間の集大成を形にすることができたことから、この科目の目標は概ね達成されたと判断する。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	4年次看護総合演習は4年次前期・後期の必修科目であり、4年間のまとめの科目である。看護実践能力の修得を重視し、「看護総合実習」の科目と連携し、実習前後に演習を行っている。私は基礎看護学分野の看護技術を担当した。前期は教員2名で各7名を担当し、後期は他分野の教員4名とともに「看護総合実習」を担当し、学生9名を担当した。2020年度は新型コロナウィルス感染症により、オンラインで遠隔授業や面談を実施し、「看護総合実習」は学内実習室で対面実習を実施した。学生は、1年次から3年次にかけて看護実践の基礎や応用の各科目を履修し、講義や実習を履修してきている。この科目では、既習の知識・技術をもとに、さらに看護学の知識・技術・態度について学習を行い、「看護総合実習」の科目に繋いで、実習での学びをまとめる。学生の主体的学習を中心に学習を行うようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生は、「看護総合演習」と「看護総合実習」を繋ぎ、看護技術に関する主体的学習および課題レポートの作成に取り組むことができた。また、「看護総合実習」では、学内実習室で技術演習を行い、実践に近い学習を行った。授業アンケートによる評価結果は、後期に「看護総合実習」を担当した学生9名の中の6名による回答である。到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「新たな知識」「事象を理解する視点や考え方」「課題検討能力を得ることができた」「学びを深めたいと思った」などの項目は、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と肯定的な回答割合が100%であった。また、「的確に判断する力を得る」は83%、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」は100%であった。また、学生の学習量の評価では、1回に30分程度以上の予習・復習は100%であり、大学に入構できない期間があったが、図書館の利用は約83%、インターネットのホームページ検索の利用は100%であった。学生の授業後のまとめの発表会では、各自の学習成果のまとめと発表、また、グループでの意見交換を主体的に行うなど、学習成果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、カリキュラムマップにおいては、看護の統合に位置付けられ、思考・判断(DP-2)、意欲関心(DP-3)、態度(DP4)を達成目標としている。看護技術の学習の実際には、実践に必要な知識・理解(DP-1)の学習や看護技術の演習(技能表現)なども必要であると考えが、これは「看護総合実習」の学習内容として位置づけられる。学生の到達度自己評価の結果や課題レポートの内容などから、これらの目標は達成していると考えられる。また、学生は演習に関する自己学習や発表、意見交換などにより、思考判断、意欲関心、態度について修得し達成できていると考えられる。カリキュラムマップにおける位置づけは看護実践の統合、発展の段階として考えられ、内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は、前期に看護総合実習で学びたいテーマを各自で考え、看護技術について主体的に学習することとした。感染状況によって、臨地実習に向けて実習計画を作成することが不可能となったため、後期に学内での対面実習を行うことにした。また、学内実習では、他の教員担当の学生と一緒に、約40名の学生をグループに分け、事前に複数の看護技術について課題レポートの作成と提出を求め、実習室で看護技術を実践する実習とした。実習後は、実習のまとめと発表、意見交換行い、看護観や倫理について学ぶ機会とした。学生の授業評価では、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的な回答があり、また、「国家試験対策になった」という意見もあり、学習成果が得られたと考えられる。次年度の改善策として、前期は臨地実習に向けて実習計画と学習を進め、臨地実習ができない場合は、学内実習にすることを計画しておく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護技術に関する学内実習や課題レポートの作成などから、授業の目標は、やや達成できたと考えられる。今後は「看護総合演習」の科目と「看護総合実習」の科目を効果的に連携して学習を進め、対面授業とオンライン遠隔授業を組み合わせで計画していくことが必要である。今後も、google classroom を活用して、オンラインの授業や課題を設定して、学生の主体的な学習ができるように検討する。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	中原 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目のなかの『看護実践の統合』の位置づけとなる科目である。 既習の知識・技術を統合して、慢性期・終末期の患者への看護実践能力を養うことを目的とする「看護総合実習（慢性期・終末期）」に連動した科目でもある。 また、学生から看護師への役割移行期であることをふまえ、責任ある行動や自主的・意欲的な態度を養うことも目的としている。 例年は「看護総合実習」と課題を連動させ、実習計画立案や事前学習、実習後に実践をふまえたレポートを課していたが、本年度は臨地実習が困難であったことから、文献研究によるレポート課題に切り替え、ゼミ形式で取り組んだ。既習の科目や実習での実践を振り返りながら自己課題や追求したい課題を明確にし、テーマに沿った文献検索が行えるように指導した。前期は全面遠隔授業であったことから、オンラインでのゼミ開催や、メール、Classroomも活用し、対面での指導が可能な期間はできる限り対面で実施した。特に、研究論文の形式に沿ってレポートを作成する際には、学生個々人の特性や進行状況に合わせて個別にきめ細かく指導を行った。グループ間で学びを共有する場としては、抄読会や発表会などを開催した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は86.6点であり、全員が理想的レベルに達することができた。DP別では2-1が87.2%、DP3は85%、DP4は85%であった。これは、関心のある看護の領域でゼミを選択しているため学習への準備状況が良いことと、意欲・関心を持ったテーマを選定しているためと考える。 学生の自己評価は7名中2名が未提出、提出の5名のうち1名はすべてにおいて「①全くそうでないと思う」を選択しており正確な到達度が判断しにくい。しかし、他の4名はほとんどの項目が「④わりにそうだと思う」～「⑤かなりそうだと思う」に分布しており、おおむね達成感を得ることができたのではないかとと思われる。また、図書館の利用状況としては例年よりやや低い傾向があるが、これは前期期間は学生が大学内に入れなかったことと関連していると考えられる。学習量としてはまずまず確保できたと自己評価しているが、自由記載には国家試験の学習に関する記述が3件あり、ゼミでの国家試験対策フォローアップと科目内容を混同している可能性が高いと考えられる。 以上のことより、自己評価からは正確に検証できないが、成績からは積極的に自己学習に取り組んだものと評価でき、教育目標は達成できたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門教育科目のなかの『看護実践の統合』の位置づけとなる科目である。 必修科目であるため、全員が「必修科目である」、「資格取得に必要である」などが選択理由ではあったが、一定の成績を修めていること、学生の自己評価でも到達できたと評価していることから内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」で大半の学生は肯定的評価であったが、1名が「全くそうでないと思う」と回答している。基本的に演習の大半は個別指導で行っており、対面もしくはメールで直接やり取りをするなかで質問・応答をする場面は多くあったが、特に今年は遠隔でのやり取りも多かったことから、それを機会と捉えられなかったことも考えられる。引き続き今後も積極的に呼びかけるなどの改善・工夫を行っていく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	統合科目として必要な到達レベルを達成できており、意欲面、態度面においても学生がモチベーションを維持しながら修了することができていたことから、本科目の目的、目標は達成できたと考える。ゼミのメンバーは毎年変わるため、個々の特性や関心事にあわせた個性のある指導方法を今後も工夫していく必要がある。 本年度は、慣れない遠隔授業への変更、看護総合実習との連動も行えなかったことから、テーマを追求して学びを深める楽しさを感じにくい状況があったと考える。今後も情勢に合わせて、できるだけ学生が戸惑わないよう、コミュニケーションを密にとりながら指導していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は4年生前期・後期、必修科目である。7名の学生を担当した。受講動機は、「必修科目である」100%であった。ほとんどの学生は急性期看護を第一希望していたが、小児希望者もいた。 ②看護総合演習は、看護総合実習の準備および事後の発表を行う科目である。今年度はコロナの影響で臨地実習へ行けないという状況であったため各論実習で受け持った事例をもとに論文形式でケースレポート作成、抄録作成、パワーポイントをもとに発表を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は、平均値82.0（±2.6）だった。全員が理想的なレベルに達していた。その理由としては、実習をととしてケースレポート作成に必要な情報を十分得ることができていたこと、その情報をもとに目的にそった考察を行い、自己の看護観を述べることであったと評価することができたためである。さらにパワーポイントを作成し発表・質疑応答を行ったからである。コロナ禍のため、図書館の利用率は28.6と低率であったが、インターネットの利用が多かった。 ②DP観点別の成績は、いずれも高く、知識理解48.6/60点（得点率81.0%）、関心意欲16.0/20点（得点率80.0%）、17.4/20点（得点率87.1%）と、全員が理想的なレベル（80点以上）に到達した。 ③授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られた」3.9で最も高く、次いで「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」3.7であった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」3.0と低くみられた。これは、本来であれば臨地実習の準備に位置づけられた科目であったが、臨地実習へ行けるかどうか曖昧な状況が続いたためスタートが遅れた影響と考える。 ④図書館の図書・雑誌利用、学術データベース利用では28.%が利用しておらず、インターネットの利用は100%であった。学習量の評価では、1回30分程度以上の準備・復習を全ての学生がしており、4回以上の学生は100%・85.7%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めたいと考えて受講しており、各論実習の事例をもとにケースレポート作成を行うことができた。本来であれば、看護総合実習の事例をもとに論文形式でレポート作成を行うが、今回は看護総合実習へ行けなかったということで、各論実習の事例をまとめるようにしたことで、一連の学びを得ることができたと考えられ内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 ケースレポートを研究論文の書き方で記載することができていた。さらにパワーポイントを用いて発表・質疑応答を行うことができていた。また、自己の看護観を見いだすことができていたことを踏まえて、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	臨地実習へ行けるかどうか、はっきりしない状況で演習に取り組むことになった。 また各論実習の事例を用いてケースレポートにまとめるようにしたため、曖昧な記憶と記録の不備があったために進度に個人差がみられた。 最終ゴールは示していたが、個人差が見られ修正に時間を要した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	コロナ禍のため、来年度も臨地実習へ行けるかどうか不明である。 臨地実習へ行けない場合を想定して、知識面での修得と整理を早めに進めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①事前学習として「血糖自己測定」「インシュリン自己注射」「輸液中の清拭及び寝衣交換」「酸素療法・排痰法・呼吸法」「12誘導心電図」「気管挿管の介助・チューブ固定・口腔ケア及び吸引」「心電図モニター」「輸液ポンプ」目的と方法と注意点と根拠を課題とした。 ②COVID19禍にて臨地実習は行えなかったが、大学の実習室を使用し対面実習を行った。事前課題として学生が学んできたことを全て実践し学べるできるよう日程調整した。患者は、急性期では人形で、慢性期では学生自身が患者役となり演習を行った。技術演習時間を設け、その後、教員の前で実践し、教員はチェックをする。を、援助技術ごと繰り返した。また、実践後の後片付けも看護師の大切な仕事であり、その体験もできるように配慮した。 ③文献研究・ケースレポートにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日（遠隔）を設けて、完成まで指導を繰り返した。 ④レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（遠隔）する（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は85.3点、A判定（90+）0名、B判定（80-89）7名であり、全員が標準的レベルに達したと判断する。目標別にみると、思考判断82%、関心意欲89%、態度は88%であった。全体的に真面目に取り組む姿勢が見られ、目標達成に反映された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.5に推移しており、すべての項目において、全ての学生が「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた（受講者7名中2名の解答、中1名9月卒業）。 回答者2名中1名が、図書館の利用・インターネットによる文献検索・インターネットの利用しなかった回答しており、自らで新たな情報を取り入れながらの学んでいけるよう、指導をしなければならないと反省する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、4年間の集大成ともいえる科目である。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、思考判断82%、関心意欲89%、態度は88%であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、全員（2名）目標を達成したと考えられており、平均点の85.3点から考えても、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員（2名）が「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」と回答しており、平均値も4.5であり、概ね説明は分かりやすく質問に対する対応もできていたと考える。 図書館や学術データベース、CiNiiを利用しレポート作成に取り組むことができよう、検索方法などについて、資料を配布し、さらに口頭で全員に説明したが、説明が不十分であった様子。今後は、口頭説明と資料配布だけでなく、実際に利用方法を見学させて学ばせるよう配慮していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標については、概ね達成できたと考える。 次年度も、個々の学習レベルを考えながら指導し、時間配分も調整していく。 図書館の利用・インターネットによる文献検索が全員出来、自身で新たな情報を取り入れながらの学んでいけるよう、指導を行う。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	緊急事態宣言により、通学ができないまま新年度が始まったため、4月当初よりGoogleMeetを用いてゼミを開催してきた。はじめは、国家試験対策として過去問集の回答と解説や、講義を行い、学習の習慣づけを図り、就職活動への対応を個別に行った。遠隔でのやり取りで進められることがわかり、5月遠隔授業が開始となってからは、総合演習・実習の課題を設定し取り組みを開始した。 学修環境や日程的な進行の観点から、学生が自立してテーマを設定することは困難であると考え、一つの大きなテーマを分担して学修を進めた。また、課題を2段階に分けて設定し、1段階目の学修成果と、取り組み姿勢から2段階目のテーマの難易度を考慮して、学修課題を指定した。また、その中でも学生が自立して選択、自己決定できるような幅と日程的なゆとりを持って対応した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館、インターネット利用」，自由記述の意見など	学生によっては、取り組みの丁寧さや、時間管理の正確さには差があったが、これまでの学業成績やいわゆる学力と学修成果が必ずしも相関していたわけではなく、このことは臨床看護実践にたいする意欲のたかさや臨床能力を獲得しつつあるプロセスに似ていると感じた。学習活動全体が、今後の看護師としての成長を期待できるものであったし、同時に弱みも明らかとなり、大学4年生としての成長があった。7名について総合演習の平均点は90.3点 最低84点 最高96点、総合実習の平均点は94.8点 最低87点 最高97点となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	テーマとした深部静脈血栓症予防の看護は、学生がどのような領域の医療機関で勤務する上でも重要な看護ケアの一つであり、コロナ禍で隣地実習ができないながらも、近い将来のリアリティを以て実践的知識を学ぶことにつながったと考える。また、このような知識は、働く意欲や意気込みを高め、学修によって自信を高める事ができると感じる事ができた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	コロナ禍において、特に4年生では、学ぶ方法とその支援方法が従来とは全く異なるものになったと感じるが、学生は、遠隔のメリットを生かしてMeetでの友人同士のつながりや勉強を継続できたものとする。 一方では、家庭環境によっては、必ずしも有利ではなかった学生もいただろうと思うし、学生が大学施設を利用できる権利や自由がもう少し柔軟に確保されたらよかったのではないと思う。また、総合実習に対する学科の方針が検討されていたが、結論がないまま進行していった点は、次年度は事前にいろいろ申し合わせて戦略的に計画していく必要があると感じる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	深部静脈血栓症予防と看護に関して分担して学修し、最終的に55ページの冊子を作成した。参考文献を学内で調達しPDF化し、Google Classroomに保管。学生は該当の文献を選択し精読、要約を作成しClassroomで共有、プレゼンテーション。最終的に提出された物について、内容、出自、表現を溝部が編集し、冊子とした。 総合実習としては、この深部静脈血栓症の観察と予防ケアに関連して、富士フィルムメディカルの協力を得て、ハンディエコーで深部静脈の観察をした他、下腿計測、ABI測定、弾性ストッキング着用とその指導、間歇的空気圧迫装置、足関節運動の一連の看護技術演習を実習室で行った。演習で獲得した知識をもとに、技術演習の方法は、各自が自律して取り組めており、学んだ充実感があったという記録があった。 プロセス、成果においても、看護基礎教育課程4年生として優れた内容となったことから、学ぶ障壁や手間を軽減することは、高学年では有意義であると感じる。また、学修について信頼できる学生であったとも言える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が0%、「関心のある内容である」は28.6%、「単位数を確保する」が14.3%であった。精神看護領域は、第1希望の領域ではなかったかもしれないが、それなりに関心はあり、準備性を持って受講していると思われる。 ②看護研究演習を選択しない学生がほとんどなので、本科目は4年間の集大成の役割をする科目となる。研究演習の代わりとなるようなものに仕上げることを目標とした。新型コロナウィルス感染症の影響で、最初からリモート授業となったためクラスルームにおけるMeetを活用し授業を進めた。 ③リモート授業ではMeetのグループを作成し、学生が主体的に進められるように支援した。後半は個別指導中心の丁寧な授業を進めた。学生のテーマを大切にしながらフィードバックを行い効果的な指導ができるように心がけた。 ④卒業年度になるため社会人としての基礎知識やマナー等にも留意して演習を進めた。 ⑤本科目と各論実習、就職活動、看護師国家試験の準備が重なり、学生は負担が大きいがすべてがスムーズに進むように、スケジュールを提示し、微調整をしながら進めた。 ⑥授業時間だけでなく、メールやMeetを活用して、学習の進行を助けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績評価の平均値は83.0点であった。成績の内訳は、A（秀）が14%、B（優）が72%、C（良）が14%であった。学生の到達度自己評価の平均は、4.15で肯定的な回答であった。図書館、データベース、インターネット等を授業の課題のために全員が利用している。文献クリティークの取り組み状況や、ディスカッションの内容、およびレポートの内容は、学習を反映したものとなっていた。また、学習量については十分な時間をかけていた。演習が進む経過から、テーマに対する意欲、関心の高まりが感じられた。7名中、2名が進学組であったためレポート作成に取り組む期間が個々違ったが、それぞれが努力し全体を通して目標は達成されたと考える。ゼミ生全員が最後まで努力し、レポートの完成、発表資料作成できており、それぞれが研究や発表を頑張ったようであった。今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響でリモートで指導することが多かった。今後も同じような状況が続くことも考えられるので、できるだけ思考の深まりができるように指導方法を工夫したい					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は看護学科4年間における学習成果の集大成として看護実践の統合科目としての位置づけである。学生の自己評価、学習に取り組む姿勢、成績が高かったことから、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量は、十分確保されていたと考える。図書館の利用については、「授業を通して図書・雑誌を利用した」「CiNiiなど学術データベースを検索し利用した」の割合は100%となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の利用が制限されていたが、利用できる期間に集中して活用したと思われる。学生は、授業中のディスカッションや個別指導された内容などについて次回の授業までに調べて考察することができていた。また、授業時間以外に必要時はメールやMeetで指導するなど、学生のモチベーションを下げることなく、学習を進めることができた。結果、学生の主体的・自発的な学習態度は引き出すことができたと考え。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	4年次開講の科目であり、各論実習、就職活動、看護師国家試験の学習と同時並行で行わなければならないため、学生にとってテーマに取り組む時間の確保が難しいことが予想された。加えて新型コロナウイルス感染症の影響で予定が立てづらく、これを補うために、学生それぞれの進行に合わせて微調整をしながら個別指導を進めた。このことは学生の負担軽減になるとともに、テーマについて深く思考できることにつながり、学生の自己評価を見ても効果的であったと考えられる。本科目の履修は学生にとって負担感があると思われるが、4年間の集大成として学びの獲得は大きいので、意欲的に取り組めるように工夫していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまで看護学の講義、演習、実習を振り返り、疑問や心残りの部分を研究的に深め、卒業論文を作成するものである。本来、自分の興味・関心がある領域を希望し、探究していくものであるが、受講生に聞くと、「実は、他の領域希望だった」との回答が多く、授業評価アンケートの受講動機を見ても、「関心のある内容である」を選択した学生はわずか1名であった。そこで、なるべく関心のある内容を学習してもらうため、テーマ選びは自分が臨床実習で残した疑問や、やり残したと思ったことを選択してもらい、それを在宅ケアに置き換えて探求していった。 看護総合演習のメンバーは、一般のゼミに相当し、アドバイザー役割もある。最初のゼミメンバー顔合わせで、今までお互いに話したことがない学生もいた。そこで、グループ作りから始めた。また、初回に看護総合演習・看護総合実習計画をシラバスとは別に配布し、さらに、国家試験準備、就職活動と並行して実施するための見通しを説明した。そのためか、「シラバスを参考にした」学生は7名中2名であったが、「教員のオリエンテーションに沿って計画を立てた」では8割の学生が「立てた」と答えている。 第1回目は、今後1年間の就職活動、国試対策、卒論作成の流れをイメージする大切な授業なので、今後も丁寧に説明していきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	看護総合演習は、学生にとっては4年間の総まとめで、領域および教員を自分で選択できる唯一の科目でもある。しかし、希望していなかった分野に配属されたためか、授業評価アンケートの到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」が平均値が3.9点であった。一方で「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」で平均値が4.6点であったことは、希望の領域ではなかったが自分のテーマに沿った学習ができたからではないかと推測する。 授業評価アンケートの学習量の評価では、「授業に参加するために予習/復習した」では全員の学生が複数回実施していた。また、全員が図書館の蔵書・雑誌、図書館の学術データベースやインターネットで文献を検索し、利用していた。これらのことから、自らのテーマについて探究し、積極的に取り組んでくれたことがわかる。 今年は新型コロナウイルス感染症の影響でリモートでのディスカッションだったことから、活発な情報・意見交換がし難い状況だった。また、リモートでの指導が続いたため、学生同士の情報共有が難しく、論文完成のスピードが学生でまちまちであった。最終的な成績は、平均点81.4点であった。成績の内訳は、秀1名、優5名、良1名、であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、論理的な思考判断（DP2）、看護職として学び続ける意欲関心（DP3）、倫理に基づく行動と多職種連携の態度（DP4）を指している。在宅看護の領域は、対象者があらゆる年齢、疾患を持つ人であり、他の看護学領域の知識を動員し、多くの推論を立てなくてはならないことから、思考判断が難しい。しかし、到達度の自己評価で、「事象を理解する視点や考え方を新たに得ることができた」は平均点4.4点、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力をえることができた」は平均点4.3点、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」は平均点4.6点「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は平均点4.3点と回答されたことは、評価できる。 一方で、ディスカッションをしながら考え方や視点を身につけることを目的としていて看護技術を追及する領域ではないことから「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均点3.6点と最も低かった。これらは学内演習ではなく、実習によって臨地の看護師の技を見ることで補えると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本来、看護総合演習は看護総合実習の前後で開講し、文献学習から実習目標の策定、実習後の卒業論文作成までを実施する。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響から臨地実習ができず、文献レビューをするとともに、事例研究をいくつかリサーチしたものを実習に代えて、論文を作成した。 臨床実習のない時期には、ほぼ毎週、個人のテーマについて調べてきたものをリモートで発表し、ディスカッションしていった。しかし、リモートではディスカッションにならず発表者と教員が解説する流れが多かったが、授業評価アンケートの到達度自己評価で「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」が平均値が4.9点「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」平均値が4.7点、と高い数値になっている。知らないことが知られたことは良いことだが、解説されることで満足していることが考えられ、リモート発表の中でも思考する環境を作る工夫が必要だったと思う。 9月から10月には、就職関係や国家試験対策で論文作成が進まない時期があった。例年なら、大学の授業や行事で登校するが、新型コロナウイルス感染防止の観点から登校が規制されていたことから、学生とコンタクトを取る機会が少なかった。その中でも、着実に作業を勧められる学生とべ切を守らない学生があり、完成時期に開きがあった。自主的学習と計画的学習の両方を達成できるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護総合演習は、少人数で学生主体で行う科目である。また、卒業論文に相当するものであるため、学生に難度の高い要求をしてしまう。科目の特性を十分説明して理解をえることが、主体的学習に最も必要な事である。「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」が昨年は平均3.8点と、最も低かった。次回までに「何を、どこまで」をなるべく明確に示すようにしたところ、今年は平均点で4.7点であった。今年度はリモートでの展開で、学生や条件の違いがあって一概には比較できないが、課題は明確に示すことが好まれることがわかった。 大卒看護師は、卒業後2年目から看護研究のメンバーになるところが多い。大学を卒業したら、さっそく1年目から事例発表、2年目から病棟での研究的活動に参加するようになる。今回、最初に設定したべ切に提出できた学生は1人のみで、提出時期に開きがあったことから、卒業後、課題を見出し、主体的・計画的に取り組む姿勢と行動力を身につけられるように計画していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の自己の課題を探究するための科目である。本年度は感染症拡大予防のため、臨地での実習の実施が困難な状況であったために、実施できない場合も想定しながら、自己の課題を見つけ、文献検討を行い、プレゼンテーションを行う機会を設けた。しかし、初めての遠隔でのディスカッションの場であったため、発言も少なく学びの共有が難しい状況であったため、1つ1つ文献を読みながらそれぞれ学生の気づきを丁寧に聞いて行った。教員と学生個々のやり取りを聞きながら、他の学生はどう考えたのか、疑問を感じたところはなかったのかなどを聞きながら進めていった。また、テーマに関連し、調べ学習を行った内容について、メンバーにプレゼンテーションを行い、知識の共有を図った。他領域の臨地実習と重なる学生もいるため、全員の進捗が一致することは難しい。そこで集団と個別の指導を組み合わせた。特に後期の対面授業が可能になった段階では、個別の指導を強化していった。また、課題を明確にし、文献検討などの1つ1つの過程を学生が主体的に行っていけるように指導し、論文作成から成果発表までの各段階において達成感を持てるように関わっていった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価の平均点は81点であり、全員が標準的レベルに達していた。 DP観点別の成績では、思考・判断（DP2-1）は、48/60点（得点率80%）、関心・意欲（DP3-1）は、15.5/20点（得点率76%）、態度（DP4-1）は、17.4/20点（得点率87%）であった。 学生の到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとする専門分野において、さまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとする専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が最も高く4.2点であった。 最も低かったのは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」であり3.8点であった。 授業の質の評価の平均値は、4.5-4.7点であった。 学習量の評価では、授業の予習・復習を4回以上行っているものが全員であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護の統合の科目として位置づけられており、自ら課題を見出し、解決に向かう総合実習の前段階の演習である。集大成の実習に向け、主体的に学習をする科目である。この課題に向け、文献学習を行い、ゼミメンバーでの検討をするなど、学生も積極的に取り組んでおり、また一定の成績を修めており、学習態度など良好であり、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初めての遠隔での総合演習を行うことであったため、学生ともに戸惑いが大きく、当初はディスカッションを行うこと自体困難であったが、徐々に問いかけに対して発言ができるようになっていった。しかし、対面とは違い、自由にディスカッションが行えたかについては、学生の到達度自己評価も「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が最も低く課題が残る。昨年度は、成果発表には、実習施設の指導者にも参加していただいた。今年度は実施できなかったが、次年度は、発表の場の検討も行き、自身の成果発表も充実させ、プレゼンテーション力も向上できるように取り組んでいく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、看護の統合の科目として位置づけられている。上記に示した評価点、DP観点別評価、学生の自己評価などから見て標準的な達成はできたと考える。自ら課題を見出し、解決に向かう総合実習の前段階の演習で、看護の統合にむけた集大成の実習に向け、主体的に学習ができるように次年度も指導していく。また、メンバーの課題にも関心をもち、看護職としての視野を広げていけるようかかわっていく。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践及び専門領域上の自己の課題を探究するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合演習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察するものである。本年度は、看護総合実習が遠隔となり、指導方法も遠隔中心の展開となったため、学生個々の課題への達成感を得るために、グループでの対応と個別での対応を組み合わせ、実習を通して現場で提示された課題について、さらに洞察できるよう議論を深め、主体的学習が進むための学習支援を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、92.4(94.3)点であり、全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては92.4(91.9)％、意欲・関心に関しては95.5(100)％、態度に関しては100(100)％であった。 学生の到達度自己評価においては、3.7から4.2となっている。 中でも、従来の年度より、低評価の3.7となっているのが、「職業選択の参考になった」という部分では、現場での実習を看護総合で実践できず、実体験を交えることの有用性を表した評価となっている。 一方で、高評価となっている「自分が学ぼうとしている専門分野の課題を検討する力を得ることができた」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目については、最終学年として重要な内容として今後の教育方法及び内容の参考としたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門教育科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況である。本科目は、最終履修学年である4年であることから、まさに学習の集大成と位置付けられる。結果、最終成績評価からみた場合、目標を達成できていると判断でき、看護への新たな目標を学生自身が確認できたのではないかと考えられる。加えて、看護を生涯学習することの意味の理解につなげることができたのではないかと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	従来、本演習を進めるにあたり、4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況に対し、「何をしたらいいのか」と具体的方法を探すことに目が行きがちな学生に、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりを徹底した。そのことで、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることができていた。今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、様々な影響を受ける中、学生達が、従来の学びの過程を歩めるよう、頻回な遠隔による学習支援及びディスカッションの機会を設けることを心がけた。その結果、授業の質評価においては、4.2～4.7と。学生の満足度は一定の成果と結びついたといえる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	科目が開始した4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況は、毎年度見られる状況であったが、今年度は加えて、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、学生達の学習成果が出せるのかの不安にも繋がっていた。そのため、従来通り「何をしたらいいのか」と具体的方法を探すことに目が行きがちな学生に、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりと、頻回な遠隔による指導を徹底した。そのことにより、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることに繋がった。また、基盤づくりの準備状況が実習指導者にも評価されることにより、専門職としての意識を高めることにも繋がった。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた演習科目である。前期に基本的知識の確認及び抄読会を実施し、実習テーマの設定、実習計画書の作成を行う。産業看護領域における企業及び健診センターの保健師活動について実践力を修得する。2019年度は全て学内実習となったため、それまで演習で実施していた企業の事前訪問、工場見学及び指導者との実習計画打ち合わせを行うことができなかった。 現場に出向けない状況、かつ、企業内部情報の開示はリモートであっても外部に情報開示できないなか、パンフレットや企業HPで公開されている情報の範囲で企業の特性把握ができるよう準備した。また、実習指導者と連絡を取り合い、リモートでの実習指導について打ち合わせ等を重ねた。 受講動機は、「必修科目である」100.0%、「資格取得」22.2%であった。 学修の準備性では、今回の課題に向けて、各自、文献検索が必要であった。図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」75%、「学術データベースの活用」58%、「インターネットやHP」100%の学生が利用していた。「学習量の評価」では授業の準備及び復習を全14回中11回行った者は75%であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終評価となるレポート（平均値85点）では、看護総合実習で計画した看護方法及び技術について、文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。また、演習への参加態度ではグループワーク等において全員が意見を発言できた。以上より、全項目で「達成した」と考えられる。 一方、学生の達成度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」2.8とかなり低かった。「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」3.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」3.1であり、到達度時期評価は例年と比較して低い傾向であった。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」75%、「学術データベースの活用」58%、「インターネットやHP」100%の学生が利用していた。「学習量の評価」では授業の準備及び復習を全14回中11回行った者は75%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機では「必修科目である」こと、「受講動機」「学習到達度の自己評価」から、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。学習到達度の自己評価では、「自分なりの目標を達成した」は低かった。その要因はカリキュラムにおける本科目の妥当性の問題ではなく、下記の授業の進め方に不足点があったと考えらえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」5.0、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」3.0であった。リモート演習でできるだけ学生との双方向の授業方法を実施できた。 「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」2.8、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」2.7と、これまでにない低評価であった。実習施設との調整がうまく機能せず、初回の授業で学生に提示した成果物の提出方法が途中で変更となってしまったことが影響していると考えらえる。また、「説明は理解しやすいものであった」2.3とこれまでにない低評価であった。自由記載では、指導方法への改善を望む意見がみられており、学生個々理解状況を十分に把握しきれていなかったと内省し、来年度は、「学修のための情報利用」「図書館、インターネットの利用」といった学生の努力を認めながら、学生の学ぶ意欲とモチベーションを高めつつ、理解の状況を確認する時間をその都度確保し、疑問を残して次回に進まないように配慮することが改善の方策である。 また、本科目は看護総合実習と連動しているため、実習中に指導者との情報共有を行い、個々の達成状況に応じた指導内容をすり合わせることに留意する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	リモートによる看護総合演習を行ったが、学生の状況を十分につかむことができず、達成度、授業の質の評価は、全体的に前年度より低下していた。 次年度は、上記にも述べたように、自己学習の努力を認めていることを言葉にして学生に伝える、意欲とモチベーションを高め、個々の自主性を尊重した授業及び個別指導を心掛ける。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。今回の受講動機をみると「必修科目である」と「資格取得に必要である」が75.0%と最も高かった。学生は、この科目について、必修科目や資格取得に必要と認識し受講している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、89.7点(±8.4)であり、「優」以上の学生が87.5%の成績であった。 目標別にみる達成度は、思考判断が88.2%、関心意欲が91.4%、態度が90.7%で、DPの達成レベルを80%とするとほぼ達成したと考える。 「学生の到達度自己評価」項目の平均値は3.8～4.4であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられた必修科目である。学生が十分な成績を収めていることから、カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的には妥当であると考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から、すべての項目が達成されている。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この授業、「授業の質」に対する学生の評価は、4.3～4.6であった。 学生の「学習量」は、準備および復習ともに個人差がみられた。 学生の「情報利用」、多くの学生は、シラバス活用し、計画を立てて、履修していた。 学生の「図書館の利用」について、学生はレポートを作成するために、図書やデータベースやインターネットなど全ての項目を全員が活用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられ、総括的な科目である。今年度は、3年次の「看護研究の基礎」の講義を確認しながら進めた。また、各学生のレポート作成の支援は、各学生の実習時期が異なるため、学生の実習後に個別指導の機会をとって進めた。次年度も個々の学生の取り組みの進行状況を把握しながら指導を進めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
遺伝看護学	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①外部講師2名とのオムニバス講義であったため、外部講師による集中講義の事前に、基礎知識を整理する時間を設けた ②最終学年での秋開催の講義であったため、参加意欲、参加のし易さを促すために、集中講義とした ③臨床経験の豊富な外部講師にきていただいた ④倫理的側面の大きい分野であるので、知識学習のみならず、今後の職業選択や職業倫理に想いを馳せる思考の時間を設けた
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	遺伝に関わる知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の間に「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」とした学生は13/13人と高かった。事象を理解する視点や考え方を得ることができた、また自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた、とした学生も同様に13/13人と多く、自覚的評価は高かった。職業選択の参考にもなったようであった。 全講義終了後にテーマを与えた上でレポートを提出させ、それを評価対象としたところ、外部講師の講義から知識や倫理的な課題について教授されたことについて各人理解し、検討することができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	母性や助産への進路を検討している学生も多く、また国試対策として知識の整理を希望する学生もいたが、課題レポートのみを課し、知識などについて評価しなかったこと、また学生自身による自由記載はなく、学習到達度の自己評価について捉えられなかった。授業評価アンケートの自由記載欄には「看護職としての考え方を学ぶことができた」「この授業を受けることができてよかった」と、知識履修だけではい意義に言及している学生もあり、本講義の重要なメッセージがある程度伝わったことが伺えた。態度については、講義形式をより相互的なものにすることで伝授できるところもあると考えられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	以前より、外部講師によるオムニバス講義であったため、一部講義内容が重複することがあり、今後調整の方法を検討する必要があると考えられ、外部講師との連携を強化する必要性があったが、今年度は、取り組み4年目ということもあり、相補的に講義が行えたと考えられた。一方、遠隔講義であったことから、長時間の講義の聴講は集中を持続させることが難しく、また双方向性の議論という、本講義の利点が減じたことが危惧されたが、学生の評価は、例年と変わらず、高いものだった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	我が国においても遺伝看護の第一線で活躍されている講師をお迎えしての講義であり、質の高い内容であったこと、また学生の意欲も高かったことから、学生たちの学びは大きかったようであった。✕年度をもって、本科目は終了となるが、別の形で、カリキュラムに取り入れられる意義は高いと考えられ、検討が求められる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学演習	4	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生前期に既習した「救急・クリティカルケア看護学」の知識を基盤に、特に人工呼吸器装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器を装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会とする予定であったが、遠隔授業となったため、病院で実際に人工呼吸器を装着している患者の看護動画を視聴し学びを得た。最終的には、救急・クリティカルケアにおける看護師の役割について各自レポート作成し発表を行い、学びの共有を行った。 ②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。 ③学生の受講動機では、4名の回答があり、「必修科目である」が1名（25%）、「関心のある内容である」3名（75%）、「教員に勧められた」1名（25%）、が動機になっていた。今年は、自身の希望とする受講者の割合が高かった。 ④外部講師の集中ケア認定看護師による演習を組み込んでいるが、実際の人工呼吸器を用いて患者体験する予定の日に、遠隔授業となり患者体験がかなわなかった。しかし急遽、集中ケア認定看護師の勤務地における看護実際の撮影いただき、人工呼吸器装着中の看護の実際を視聴できたことが、看護の知見を深め、根拠をおさえた学びにつながったと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の履修者は14名であった。最終的な成績の平均値は、89.4点（SD2.7）点であり、A判定（90+）8名、B判定（80-89）6名であった。全員が理想的レベル（80点以上）に到達できた。昨年同様に、今回も、全員が標準的なレベルに到達することができた。 DP別では、「思考判断について」は76%、「意欲関心について」は98%、「態度について」は99%であった。全体的に講義に対して、意欲関心はあり、真面目に取り組む姿勢がみられ、概ね目標はほぼ達成された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.0-4.8に推移しており、全ての項目において、全ての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 講義時間内に、集中して講義課題に取り組める授業構成としており、学生は講義時間内に集中して学ぶことができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、内容的は妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「態度」99%、「思考判断」76%「意欲関心」98%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。事例および実際の人工呼吸器装着中の看護を通して、「関心・意欲」は98%と高値であった。平均点の89.4点からも考えても、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も4.0～4.8であった。個人ワークおよび発表の場を設けたことで、個人の学びを共有する機会と学生の質問に対応する機会となった。 まとめの講義日は遠隔授業であり、図書館の利用がかなわなかったが、それ以外の日で、図書館を利用できている学生の割合が75%であった。しかし、インターネットによる文献検索をしていない学生が半数を占める結果であった。4年生であれば、最新の情報から学び、その情報をまとめる力も必要となる。今後、文献検索方法および文献検索の必要性を説明し、課題への内容の広がりや理解の深まりを支援していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、4年次の選択科目である。 行動目標については、概ね達成できたと考ええる。 今後も、演習に興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を図っていく。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	雪松 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年同様受講が4年生の後期で、国家試験対策に力を入れている時期であること、NPOとの関わりを意識せず生活してきたことから、一定数関連がないと感じていることはしかたがないことと感じています。しかし社会に出ると職務上、市民やNPOとの関わりが出てくる。またNPOは市民の声から活動し、QOLの改善にも力を注いでいることから、以下に注力することで、授業内でNPOと医療、住民の生活との関係性を学び、日常生活の中で新たな視点を持ち、その視野を広げることを目標としました。 ①一個人として日常で起こったことから社会を考える ②実際のNPOの事例と実習等の現場をひもづけて考える
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の平均値は90と高い数値となったが、オンラインという形式からか、理解への幅が昨年度より見られた。他の大学でも同じ傾向があったため、授業形態の向き不向きも関係していると考ええる。 知識理解：試験問題には知識と思考を見る問題を設定しており、試験の点数、授業最初の知識との差分よりやや達成されたと判断。 意欲関心については、授業ごとの発表やコメントカードと、情報利用でインターネット検索を利用した割合が回答者の7割程度あったことから評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラム上の位置付けからみた内容的妥当性：国家試験前という時期については疑問に思う学生もいるようですが、保健師や看護師としての実践を意識できるよう工夫し、成績も良いことから妥当であると考えます。 DP行動目的から見ての内容的妥当性 知識の習得や学びを深めることの意欲などは到達度自己評価からも妥当と考えられるが、専門分野で必要となる技術という点では、講義内容が技術的なことではなく、知識や思考についてのものであるため、評価が若干低くなっているのは仕方がないと判断している。 実習も経験し、4年生であるからこそその視野の広さや考え方が授業への理解につながっていると考えられる反面、試験への焦りやこの時期での履修についての疑問が意欲に影響している学生もいるようです。内容としては保健師課程に必要なものであり、内容的妥当性という面では適正と判断しますが、履修の時期については検討の余地があると考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価について、国家試験前ということで事前学習や課題を減らした授業設計にしており、それが数字として表れています。そのため、大幅な改善は特段ありません。 ただ、医療従事者としての責任を重く感じる傾向がある学生に対して、その前に一人の人間であること。学生が誠実に関わるのが医療現場での基本であることから、まず自分が何を大切にしているのか、どのようなことを重視したいのかを考える機会になったこと、授業中に、自分の意見をまとめる、話しあう、発表するなど学生が参加する機会が作られていたことに対して8割の学生がかなりそう思うと評価していることが、学生からの「今まで考えたことがなかったことに意識を向けることができた」「おもしろかった」という声に反映されたと考えます。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	おおむね授業の目標を達成したと考えておりますが、今年度は4日間の集中講義であることに加え、急速オンラインでの授業となったことで、学生の負担やオンライン授業の受けにくさも影響しました。200時間の授業を受ける集中力やオンラインで情報をとる（とることができないことがつらいと感じる）感受性など、個人差があることが成績にも影響したのではないかと懸念しています。 ただ昨年時の課題としていた、女性の身体や出産の事例を通して講義の理解を深めることについては実施し一定の効果があったと考えます。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学特論	4	後期	選択	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	来春から医療現場で働くことになる看護学科4年生を対象に、医療現場で重要性の高い疾病学の知識や医療技術を改めて解説しました。応用力をつけることに重点をおきました。また、看護国家試験に向けた知識の整理も出来るように心がけました。自著の教科書「解剖生理と疾病の特性（改訂2版）」を使用して、ポイントを絞って講義しました。例年、授業終了後も4年生からの質問には最優先で対応するのですが、コロナの影響で難しかったです。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「関心のある内容である」が86%と多く、看護師となって臨床現場で働く自覚の表れと、国家試験に向けた強い意識を感じます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	3回行った試験の成績は学生間でばらつきはありましたが、知識理解については全員が標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目の点数が高くて良かったです。「コミュニケーションや表現力を高めることができた」が低いのは、講義内容の性格上、座学中心になるのはやむおえない面もありますが、今後の課題と考えます。 看護師として臨床現場で働くうえの、基礎的知識や鼓動規範などを改めて確認して貰えたものと嬉しく思っています。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護実践の充実」に属します。看護学科の学生は1年次に「看護形態機能学」「感染と免疫」などで基礎医学を学び、「疫学」「保健統計学」などで社会医学を学びました。そして、1年次の「疾病学総論」に続いて、2年次に「疾病学各論Ⅰ&Ⅱ」「看護のための臨床検査」「薬理学」などで疾病の病態・症状・診断・治療などの臨床医学を学びました。それらの知識をもとに、様々な看護科目の授業・演習・実習で看護学を学んできました。実習では個々の患者さんの看護を経験してきました。それらを踏まえたうえで、4年次に改めて医療現場で応用できる疾病の知識や医療技術を解説したのが本科目です。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の平均値が4.4と高い値でした。皆さんが真剣に授業に取り組んだからこそこの評価だと思います。 また、学習量をみると、約8割の学生さんが30分程度の予習復習を4回以上行っていました。さすがに4年生であると感心しました。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生さんの授業に対する意欲、試験の成績、到達度自己評価などより、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 看護師国家試験の結果も良好でしたが、今後、本科目で学んだ内容を忘れずに看護師として活躍されることを祈っています。 学生参加などを取り入れたいのですが、講義数が8コマであり、内容も膨大であるため、例年の課題ではあるのですが、なかなか困難です。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	沖 勉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康政策論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	保健師コースには必須の科目である。 しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、急遽リモート授業となり、学生との対面授業ができず、多くの点で手ごたえ・反応が分からず講義が終了した。また、18名中10名の回答しか得られず、今までの学生の反応とは違った。 保健福祉行政の実情を伝え、保健所実習等で、体験を通じて、保健福祉の実情を理解するための手掛かりになったらと期待していた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	前期の4回の講義の終わりに、Googleフォームでの小テストを実施した。4回分全体の平均点を00点満点に換算すると、95点と知識理解は優れていた。 また、後期の講義では、北九州市の健康づくり計画の資料から、グループごとに問題点を解決するためのグループワークを実施した。グループワークでの成果物を発表してもらい、成果物を後日再評価した。6グループの平均点が85点と優れていた。 学生の到達度自己評価では、知識の習得や事象のとらえ方での達成度は高かった。 授業の質の評価は5項目全体の平均値が4.2点であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	以下の2点で、この科目の必要性はあると考えている。 ①保健所等実習をする際の基礎知識を学ぶこと ②保健福祉計画の策定の方法や健康に関する課題解決方法について学ぶこと 今年度の保健所等の実習がどうなったの情報までは得ていないが、学内実習であったのであれば、この科目は必要性は少し薄れるのではと感じている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この学年でこの科目は終了となるため、特に何も無い。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理演習	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「資格取得に必要である」100.0 %である。 本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。従来は、授業形態はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業となっているが、今年度は遠隔により、学生間の討議を取り入れた展開を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.5(90.6)点であり、再試対象者はいなかった。77.8(100.0%)が理想的レベルに達した。 目標別にみると、思考判断に関しては79.3(91.7)%、意欲関心に関しては90.0 (91.8)%、態度に関しては93.1(98.9)%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。昨年度より到達割合がわずかに下がっているが、遠隔での指導方法の更なる検討が必要と考えられる。 学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できる。学生の到達度自己評価においては、全項目においての評価平均が3.8～4.2点であり、昨年度の3.7～4.2と比較しても、概ね到達できたと判断できる。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討をさらに進めていく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。 最終的な成績評価及び学生の到達度自己評価から概ね目的は達成できていると評価できる。そのため、内容的には妥当であると考え。学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後必要である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開した。学生も実習後のため、地域の課題を想起しやすく、成績の結果にもその状況が反映していると考えられるが、今年度は実習期間の短縮や遠隔での実習となり、学生の現場での経験値が少なく、このような状況下における教材の開発が必要である。。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 本年度は、遠隔となり授業方法の検討が試行錯誤の状況で進めた経緯があるが、学生の学習態度が積極的で、地域の事象に対する公衆衛生看護管理としての捉え方を学びたいという姿勢がみられた。18名の受講者であるため、一人一人が学習状況も把握しやすいこともあるため、学生と教員の双方向のコミュニケーションを生かした授業展開を今後も取り組んでいきたいと考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。学生の受講動機の項目「資格取得に必要である」が100%、次いで「関心のある内容である」42.9%という認識で学生は受講している。 「学修準備性」として、学生がシラバスを参考にしたかは85%、授業計画を立てたかは71%で、7割以上の学生は、シラバスを利用し、計画を立て講義を受けていた。 この科目は、学生が学校における保健教育について知識理解を深め、教職課程の実習で保健教育を実践できる力を養うことが重要になる。授業づくりに関する基礎的な学習履修後が望ましいが、3年後期看護学科実習のためにこの時期に履修することになる。そのため、既習事項を確認しながら実施する。また、実習で授業を実践するために、講義だけでなく演習の機会を多く取り入れている。さらに、希望する学生には、時間外でも支援するように学生に伝えている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.9（±8.6）であり、再試対象者はいなかった。GPA「秀」・「優」に達したものが62.5%いた。 全体的なDP目標別達成度をみると、DP1「知識理解」に関しては84.4%、DP2「思考判断」に関しては80.9%、DP3「関心意欲」に関しては80.6%、DP5「技能表現」に関しては82.5%であった。概ね良好な成績を収めている。 学生の「到達度自己評価」に関する項目の平均値は3.9～4.4で、項目間得点に大きな差はみられない。 学生の「学習量の評価」としては、30分以上の準備と復習を6回以上取り組んだ学生が7割以上いた。指導案作成や模擬授業の練習に取り組んだことが考えられる。 「遠隔授業への積極性」について、「わりにそうだと思う」と「かなりそうだと思う」の学生が87.5%だった。 学生の「成績到達度」や授業後の「到達度自己評価」結果が概ね良好であった点から、授業はほぼ達成されたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① C P, カリキュラムマップからの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、教職課程の養護教諭一種免許状取得のための必修科目である。既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考ええる。 ② D P, 行動目標からのみでの内容的妥当性 成績評価から、学生の「知識理解」「思考判断」「技能表現」の達成度は概ね高く内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関する項目の平均値は3.9～4.4であった。 「学習量の評価」については、学生は模擬授業に向けて指導案について、時間外でも相談したりするなど学習する姿がみられた。 「遠隔授業への積極性」についても概ね積極的に参加していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけであり、学生のD P「到達度評価」や学生の「到達度自己評価」や「授業の質の評価」からみて概ね目標を達成したと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、教職における実習前後の科目であり、教職の免許状取得のためには必修科目である。学生は「資格取得に必要である」が88.9%と最も多く認識し受講している。 教職の実習は初めて経験することになる。そのため、授業内容には、実習に必要となる実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師についても、現場経験のある教育委員会の人権担当者や現職の教諭を講師として招き講話をしていただいている。さらに、4年生の意欲が高まるよう、実習発表会に次年度実習を予定3年生の参加を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績は、82.0%(±8.41)の成績であった。 学生の「学習到達度の自己評価」は、4.8～4.9という評価であった。教育目標別には、知識理解は、77.7%、思考判断80.1%、関心意欲97.0%、技能表現82.4%で達成度を80%とした場合、概ね「達成された」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職の実習前後に位置づけられた必修科目である。カリキュラムマップの位置づけからみての内容的には妥当であるとする。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からみると、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質の評価」項目の平均値は4.7～4.8点であった。 学生の「学習量の評価」は、多くの学生が実習に向けての準備や復習に取り組んでいる。 学生の「情報利用」について、「シラバスの記載を参考にしなかった」学生はいなかったが「あらかじめ授業の計画を立てなかった」と回答した学生が約2割いた。 学生の「図書館などの利用」について、「図書」や「インターネット」「学術データベース」を8割～10割利用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、教職における実習前後の科目である。事前及び事後の指導は、学生の「到達度評価」「授業の質の評価」などからみれば概ね達成できたとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職実践演習は、養護教諭免許状取得においては必修科目である。学生は「資格取得に必要である」と全員が認識し受講している。最初の授業で、全学科対象に授業概要について説明がある。学科のみで実施する授業についても説明しながら進めた。授業の進行は、外部講師から講話、外部機関（学会）への参加など、実際の学校での養護教諭の実践や養護教諭の研究の実際について理解が深まるよう授業内容を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は92.7（±6.05）点であった。目標別に見ると、思考判断に関しては93.1%、関心意欲99.3%、技能表現に関しては85.2%で、達成レベルを80%とすれば全項目達成している。 学生の「到達度自己評価」項目の平均値は4.3～4.6であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職課程の学びの集大成であり、養護教諭免許状取得に必修の科目である。カリキュラムマップ上の位置づけやその授業内容としては、妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 DPの項目の達成度からみると、DPの全項目、学生は達成しており妥当であるとする。 ③まとめ 以上、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質の評価」の平均値は4.3～4.6点であった。 学生の「学習量の評価」は、準備と復習どちらも課題に取り組み実施していたと考えられる。 学生の「情報利用」については、全員がシラバスを参考にして計画を立てていた。 学生の「図書館などの利用」については、7～10割が利用していた。 このような学生の評価から、授業の進め方については、概ね妥当とする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職課程の学びの集大成といえる本科目は、教師へとつなぐ内容として概ね達成できたと考える。次年度も、学生が教員としての力を身につけたり、学校での養護教諭の働きがわかるような実践的な授業構成としたい。また、他学科の教員と連携し講義を充実させていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、祈祷をすることの実践を毎回の授業で行うことで、youtubeチャペルの視聴意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は85点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点ではyoutubeチャペルを視聴しレポートを実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0」や、自発的学習の解答に「していない」があったことから、授業の内容をyoutubeチャベルに関連付けることが必要であるとする。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この事は課題としたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、youtubeチャベルの視聴と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。 ② 講義を2コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。 ③ 初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をととして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。 ④ グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索はCiNii、GoogleScholarの利用方法について説明を行った。 ⑤ 対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。 ⑥ DPにそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。 ⑦ 遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを1つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①105名が履修を行い（うち1名は未履修）、総合評価の平均値は74.7点（昨年度81.2点）だった。92名・88.5%（昨年度96.7%）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は41.3%（昨年度70.7%）だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-1（知識・理解）は、37.1/50点（得点率74.1%）、DP3-1（意欲関心）は、11.7/15点（得点率77.7%）、DP4-1（態度）は、20.8/25点（得点率83.1%）、DP5-1（技能表現）は、7.3/10点（得点率73.2%）だった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は、4.0（4.4-3.5）で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」は4.5と最も高く、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができる」4.4、次いで「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.2であった。 ④授業の質評価の平均値は4.4（4.6-4.0）で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が4.6と最も高く、次いで、「評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.4で、昨年度と同様の傾向であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、84.6%、4～6回以上した学生が、60.4、53.8%（昨年度40.7%・40.7%）と昨年度よりも増えていた。課題以外の学習に取り組んだ学生は、50.5%（昨年度31.9%）という結果であった。自由記載から、自主的に					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目で、初年次セミナーで学んだ既習の知識をもとに、討論、発表を取り入れた構成となっている。1年次で身につけなければならない講義内容を含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好であった。初年次セミナーを基盤とした授業構成は、初年次セミナーでの学びの確認と定着に繋がったものと考えられる。 ②自由記述に「自分のコミュニケーション能力をあげることができた」「考えが深まる」「グループ活動で仲間意識を持てたり協力ができた」という前向きな意見が聞かれた。一方で、グループによっては「非協力的な学生がおり困った」という意見も聞かれた。困ったことなどを聴けるような関りや体制づくりを検討していきたい。 ③学生の自由記述に「教員によって評価基準が違う」との意見が聞かれたが、評価指標をもとに学生の自己評価と教員評価で評価を行っている。次年度にむけ、さらに評価協議を実施し教員間の調整を行っていく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。グループワークを中心とした演習科目であるが、今年度は遠隔授業となったことで、グループ交流を画面上でしか行うことができず、難しさがあった。しかし、学生の自由記述欄から時間外も使用してグループ討議を行い課題に取り組んでいたことがうかがえる。 また、今年度は、評価表の修正を行い、レポート、発表を連動したことで、全体的に昨年度より平均点の低下につながったと考えられる。しかし、ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。 今後は、実施した授業工夫をもとに、より学生が関心意欲をもって取り組めるよう講義内容を検討する。また、これからの看護の学びの基盤科目であり、学ぶ意義を講義を通し伝えていく。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、本来からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業である。しかしながら、2020年度後期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により遠隔授業になった。 授業の前半ではラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の試合動画を視聴させ、選手の動きなど気付いた点をまとめさせることによって、各種目に必要な技術・戦術、体力などについて理解させるようにした。授業の後半では遠隔授業に伴う伊運動不足を解消するために、筋力トレーニングなどの動画を視聴しながら、実際にトレーニングを実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.5（±4.7）点であった。成績分布別にみると、90点以上が9%、89～80点が45%、79～70点が46%であり、すべての学生が標準的レベルに達しており、54%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が45%、「わりにそうだと思う」が42%、「まあまあそうだと思う」が10%であり、ほとんどの学生（97%）が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が28～46%、「わりにそうだと思う」が41%、「まあまあそうだと思う」が12～28%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.3）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が28%、「わりにそうだと思う」が33%、「まあまあだと思う」が22%であり、多くの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.6であった。 また、学生から担当教員への意見として、「オンライン上で体育をするのに無理があると思いますが、それでも工夫してくださっているのがよく伝わりました」、「対面からオンラインに変更になった時に、様々な試合動画の視聴や実際に身体を動かす機会を設けて下さり楽しく学ぶことができました」、「この講義のおかげで、自粛期間中の怠けた体の良い運動方法を知ることができました」など、肯定的な意見がみられたことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、より多くの学生に運動習慣を根付かせることである。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	はい	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。オンライン化で実施することとなったため、史料はネット上で見られるものを中心に準備した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標とし、オンライン化に伴い、毎回の授業の理解を確認するための課題を提出させたが、概ね内容は理解していると判断された。とはいえ、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。レポート（試験）の結果からみると、授業の内容よりもインターネットなどからの引用に頼る学生もいた。授業の内容が理解不足にある学生は、レポートの評価理由をメールで説明し、史料の使い方についても指導した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。前回の双方向的なやり取りが不足した点は、こちらから質問を投げかけるようにした。前年度まで課題となっていた、学生の人数に対する教室の狭さについては、オンライン化によって解消された。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、学生の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことを通して、国際的な情勢を理解し、日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めるのが課題である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	そもそも文学とは何かということも認識しないまま、ただシラバスを見て面白そうだから…と言って受講する学生に対して私個人としては、日頃から文学的考察をしない学生たちの一歩として、大切な入口であると思っている。したがってそのような学生を心から歓迎するとともに「文学は実学である」ということを講義しなければ…と意を強くした次第である。よくぞ私の講義を受講してくれた・・・と。文学的考察とは人の心、時代背景、歴史観、言語、表現といったすべての事柄を含むので、ひいては最終的に「いかに生きてゆくのか」という必要不可欠な概念の解答を導き出すヒントが与えられるものであること、そしてその根幹を掴むことを目的として講義した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義を重ねるごとに、学生の反応がより良いものに変化していったことは喜ばしく感じている。今後はもう少しマンツーマンの講義を増やしていければと考えている。学生からの感想文等々をもとにこちらが返答する形をとったが、学生自身の学びへの自覚が見られた後は、80パーセント近くまで士気の高まりが感じられた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、良かったように思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	リモート授業であったため、対面とのギャップを感じさせないよう工夫を進めていった結果、反応はかなり良かったように思う。上質な文学作品に多く触れること、昔と現代の思想の相違を作品の登場人物から探し出すということを、特に気づかいながらすすめていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、今年度は75%から80%近いと思われるが、まだまだ伸びしろがあるので、工夫を重ねてゆきたいと思っている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は68名（回答率81.9%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」58.8%、「関心のある内容である」50.0%、「単位数を確保する」48.5%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の多くの学生が履修したと思われる。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度は一時期を除いて、ほぼすべて遠隔授業で行ったことより、授業中の確認テスト、コメントおよび前期・後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は80.39点であった。再試対象者は0名（ほか、放棄者1名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は12名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに4.4、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.2、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.1であった。、他の項目の平均値は3.2-3.9の間にあり、昨年度に比べて全体的に平均値が大幅に上昇している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値はともに4.6、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.5、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.3であり、昨年度より大幅に上昇している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は27名、復習を全くしなかった学生は19名であった。昨年度に引き続き減少しているものの、今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外の学習として「復習を行った」、「興味を持ったことについて、ネットで調べた」、「自分なりのノートを作成した」などの記述があった。他方、授業以外に学習していない理由として「講義資料で十分だと思った」、「他の教科の課題が多く、手が回らなかったから」、「何をすれば良いか分からなかったから」などの記述が見られた。学生の意見について、「先生の授業は分かりやすく、面白いので楽しく授業を受けることができています。ありがとうございます」、「レジュメがとても理解しやすいものでした。説明も丁寧で、分かりやすかったです」、「毎回、生徒の質問に答えてくれて有難うございました。みんながどんなことを考えているか分かるし、いろんな気づきを得られました」、「憲法の科目が高校生の頃から苦手だったので、序盤の講義は身構えながらきいていました。でも、授業内で現在の憲法に関する課題や事例を交えながらの説明で、とても理解が深まりました」など、非常に評価の高い感想が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣がさらに定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	徳倫理学、功利主義、義務論、討議倫理を比較しながらそれぞれの基本的特徴を理解し、かつ人生のさまざまな場面でそれぞれの考え方をいかに参考にできるか、日々のニュースなども取り上げながら説明することを心掛けた。 受講動機の大半は単位数確保であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席日数、最終レポートともに合格水準に達し、レポート提出者に不合格者はいなかった。 総合成績高得点者（80点以上）が多数いた。 よく理解できなかったところをインターネットで調べたと回答した学生が複数いた。 （毎回の内容を復習するレスポンスをフォームで提出させたため）毎回復習ができたと回答した学生がいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価はおおむね良好で、内容は妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	質評価はおおむね良好であり、進め方は妥当であったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	準備状況、目標達成状況、内容、進め方いずれもおおむね妥当であったと考える。 課題は、用語そのものが難しいため日常用語に置き換えて説明すること、遠隔でも適宜顔を出すこと、遠隔時の板書（小型ホワイトボード）が読みにくいとのことだったので改善すること、などである。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。そのため、関連分野の学科に所属する学生はともかく、それ以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目といえる。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が福祉学科では88.9%、英語学科では73.7%と高い数値が表れていた（一方で本科目名に使われている「文化」に関する観光文化学科は「関心のある内容である」と回答した学生が80.0%であった）。開講時点で学生の多くは関心意欲がそれほど高いわけではないことはある程度想定していた。そこで毎回の授業では異文化コミュニケーションの基礎知識を理解する設問である「確証チェック」を行なった。学生たちが具体的な事例に基づく問題を解くことにより、理論を実践的に捉えてもらう狙いがあった。 ②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業への理解が困難となる可能性があるため、毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業内容の復習を行った。途中からオンライン授業に切り替わったため、毎回の授業の課題としても提出してもらった。 ③映像を通して理解してもらうため、「差別」そして「異文化対立」に関する動画を見せ、それぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。 ④全14回の授業のうち前半と後半において知識理解を確認するための小テストを実施した。当初は持ち込み不可という条件で行う予定であったが、オンライン授業に切り替わったため、オンラインテスト形式に変更した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は4つの学科にそれぞれ所属する100名近くの学生が受講していた。最終的な成績の平均値は75点以上であり、再試対象者はいなかったため、全員が標準的なレベルに達したと言える。 学生の到達度自己評価に関するアンケートでは、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.0であり、学生自身も本科目の知識理解に関しては達成感があったと考えられる。その一方で学習量の評価では授業前の予習に30分以上かけた学生の回答が半数以下であった。昨年度はテキストを使用しなかったため、学生個人で予習を行うことが難しかったことが原因として考えられる。今年度はその反省もふまえ、学生個人にテキストまたは事前にアップロードするレジュメを使って次回授業に該当する部分を予習してもらう予定である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 「知識理解」に関する達成度は4学科平均4.1以上と高い結果であった。「態度」に関する達成度は学科によってバラつきがあり、英語学科が平均値4.3、観光文化学科および看護学科が平均値3.9に対し、福祉学科は平均値3.6とそれほど高い結果とはならなかった。学生たちの成績も一定以上であったことから内容的には妥当であると考えられるが、学生たちに内容に則したQ&Aやアンケートを実施は毎回の授業で行うなど改善の余地はあると思われる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が一部の学科では3.2と低かった。昨年度の課題でもあったため、今年度は学生が話し合う場としてグループ討論を実施する予定だったが、コロナ禍によりオンライン授業に切り替わったことでそれが叶わなかった。オンライン授業形式ではグループ討論を行うことが難しいため、代替案として授業の合間にチャット形式でQ&Aに回答してもらう、こちらから質問し学生に音声で答えてもらうといった方法を試みていく予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度はコロナ禍の影響もあり当初の予定から変更を余儀なくされる授業が多々あった。それでも全体的な成績や、知識理解、態度といった学生の到達度自己評価の平均値のいずれもが前年度より大幅に上がったことは、昨年度からの課題であった学生の知識形成の達成と授業自体の質を上げるという目標が十分に達成されたと考えられる。 課題としては予習ならびに復習時間の向上が挙げられる。この点に関して、今年度は事前にGoogle Meetで次回使用する授業レジュメを掲示し学生にダウンロードしてもらう、次回授業に該当する部分をテキストで予習してもらうといった方策を行なう予定である。一方で昨年度から継続している毎回の授業終わりのまとめ問題の実施は、今年度も再試対象者がゼロという結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For this course we continued to use the textbook "Four Corners 1" (Cambridge), which guides students through practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the second half of the textbook.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 2 main criteria (class tasks and participation 80% and a final test 20%). Grades ranged from the 60s to the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were mostly enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build skills (DP5) were provided throughout the course with many students taking advantage of the opportunity to learn.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next term include continuing to improve integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting).
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Streamlining and improving note taking and completion of class preparation exercises will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が9割以上を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては皆が完成度の高い内容の課題を出せるようになった。到達度自己評価では3-4であることから、教育目標は到達したと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものとするため、「人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している、看護の対象と良好な関係を築くことができる」と定めたDPに沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。遠隔授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。結果、授業の質評価では中央値5の評価が得られた。履修すべき語学の目標レベルには十分に達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報処理基礎」の内容を受けて、ICTの応用的な活用手法の修得を主目的とした授業である。「情報処理基礎」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、PCを用いてより実務的な表現手法やデータ活用手法の修得に重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が7割程度、「単位数を確保する」が5割程度となっている。昨年度までは、「単位数を確保する」の割合が最も高かったが、今年度はコロナ禍におけるオンライン授業の影響により、ICT活用への関心が高まったことが、「関心のある内容である」が増加した原因ではないかと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」以上の学生が6割程度である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 ただ、学生の到達度自己評価でみると、昨年度に比べ専門分野との関連質問において、「まあまあそうだと思う」の比率が高くなっている。今度は、前期の「情報処理基礎」が別教員担当であったため、具体的な授業内容を把握できておらず、本授業へのつながりを探りながらの授業運営となってしまった。このことも、昨年度に比べて「まあまあそうだと思う」の比率を高めた要因と考えられる。来年度の向けて十分な改善を図っていく必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報処理基礎」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報処理基礎」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTスキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせてどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。オンライン授業であったため、学生の実習状況をリアルタイムに把握することが難しく、個々に応じた適切な指導を行えなかった点が発想力の発展に影響を与えたものと考えられる。今後改善策を模索する必要がある。 ③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本授業は前期の「情報処理基礎」を受けての科目であるが、今年度は担当教員が別々であったため、「情報処理基礎」具体的な授業内容を把握できておらず、前期内容における学生の理解度等を把握しながらの授業運用となった。そのため、途中までは看護学科という特殊性を考慮した教材提示が難しく、授業の質評価において、専門分野と絡めた質問項目に対して「まあまあそうだと思う」に比率が高くなる結果となった。また、オンライン授業による演習科目であるため、学生のPC画面や作業状況をリアルタイムに把握することが難しく、個々に応じて適切な指導や課題提示を行えなかった点も次年度に向けての改善点である。 また、授業以外で如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外では全く取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。ただ、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのかという点では、課題を残しており、さらなる向上を目指して検討する必要がある。また、オンライン授業による個々の状況把握についても、改善策を見出す必要がある。 以上から、専門職を意識させる取扱いデータや課題内容やオンライン授業における個々の状況把握のさらなる改善を図っていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では9割以上の学生が肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみての内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、あっ票するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について、それぞれ8名、5名の学生が「全くそうではないと思う」と回答している。昨年度、予想を遥かに超える受講生であったため、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができず、対応に苦慮した。課題が提出できているかどうか不安に思った多くの学生から一斉にメールが送られてくることがあり個別の対応が難しかったので、課題の提出ができているかどうかについては個別の対応をせず、提出できていない学生にこちらから知らせるという形にしたが、それを「メールで質問してはいけない」と理解した学生もいて、そのことが大変不安だったということを後で聞いて、大変申し訳なく思っている。口頭と文書の両方で、指示が徹底するよう努めたが不十分であった。次年度は、伝わりにくい部分がないように工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	はい	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。特に、看護師という資格を有しても働き方は多様であることに気づくよう、事例を示して働きかけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。当初は対面で授業を実施していたが、コロナ感染拡大防止のためにオンラインとなった。外部講師の講義もオンラインでの受講となったが、コメントカードを見る限りでは、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。依然として課題は人数が多いため個別的な対応ができないことであるが、コメントカードの回答に対してメールのやり取りのできた学生はいる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	膨大な範囲に及ぶ基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識（高校生物履修の有無）にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であり、以下の点について重点的に取り組んだ。 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での事例と関連させて、講義を行うよう試みた ②一方向性で知識を講義する形は避けられないが、講義中に随時学生の意見や考えを聞いたり、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うなど、心がけた ③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について小テストを行った ④折に触れ、医療に関するニュースや事例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した ⑤解剖学実習に向けて、事前学習と事後学習についてその意義について十分に説明し、また予習方法と事後レポートについては構造化した指導を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は72.2点であり、標準的なレベルに到達していると考えられたが、その内訳は、試験の点数より解剖学実習のレポートや毎回の小テストの点数で加算を得ており、知識が十分に定着していない学生もいることが想定される。 一方で、学生自身の自覚評価は、到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。と評価した学生は22+69/95人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた。とした学生は33+51/95人おり、前期より引き続き、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかった。上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうが、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(4)自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、事前に一回30分以上の復習や準備を複数回行っていた学生が、20+17+41/95人と多く、自己学習の促しには繋がったと考えられた。 解剖学実習については、学生全員、大変意欲的に取り組み、協力大学機関の教員より、その姿勢の評価をいただいた。しかし、終了後のレポートの得点平均は15/20点と低く、中に12/20と低い学生が複数おり、医療者として糧になる体験でありつつ、それを内在化させるに至ら					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP 1 知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルの工夫も必要と考えられた。 到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し「、かなりそう思う」とした学生が28+58/95人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにもかかわらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。そのため、後期試験が60点未満であった学生には、試験範囲に相当する課題を課し、正確な知識の再履修と再定着の機会とした。提出された内容は、再テストより、質が高いものであった。 また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねる必要がある。 また臓器、機能系統別に、臨床の看護実践とリンクしやすいような工夫も今後必要と考えられ、他領域との連携も必須と考えられる。☑ 学生からは、「理解しやすい授業だった」「わかりやすかった」「医療従事者を目指す者として大切な時間となった」「医療の職業の尊さを実感した」と意欲的な姿勢がうかがえる意見が聞かれた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	知識ベースの科目であり、その点においては、一定程度の達成が見られたが、その定着については評価は困難であり、継続的な支援は必要と考える。学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持できるように支援の工夫を今後重ねていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤にして行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。 本科目は卒業必修科目であり、全学生の受講動機は『必須科目である』との理由であった。今年度は、後期開始から6回までは例年通り、対面授業を行うことができたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7回以降は全て遠隔授業となった。授業資料は、その日の授業開始前までにはClassroomにアップし、いつでも閲覧し、復習に使用できるようにした。また、出欠ならびに学生自らの知識の確認のために、授業後は確認テストを実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は94.2（±4.2）点であり、本試験合格者は100%であった。レベルの内訳では、95名全員が標準的レベル(70点以上)を達成し、昨年度の成績よりも好成績を収めていた。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、例年の内容と大きく変更した箇所はなかったが、成績に差が生じたのは、今年度はコロナ禍により、学修時間が十分に取れたためと思われる。また、学生の到達度自己評価では、全学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。本講義を通して、私は管理栄養士の視点から、看護師に求められる栄養に関する知識や技術、他職種協働について、具体的事例を交えながら、説明を行った。講義内容について、学生の自由記述含め、おおむね好評であったことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題はなかった。今年度の工夫として、授業の半分以上が遠隔授業となり、学生にとってはどうしても受け身の姿勢での受講となってしまうが、できるだけ学生の意見や質問に答えるため、栄養や食事に関する質問を受け付け、授業の最後にフィードバックして、少しでも栄養学に興味を持てるよう、工夫した。質問は多岐にわたっており、このコロナ禍により、自宅での食事をする機会が増えたことにより、食生活に関するものも多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師としての専門性を発揮することのできる能力を養い、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。学生の達成度自己評価において、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答していたことから、本科目の内容等についての問題は無いものとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名の通り、疾病全般の病理学的側面よりの講義を行った。学生が初めて多くの病気のことを学ぶ必須科目である。医学用語の集積で授業を行うので、理解を深めるため、画像を多く用いた。後期の対面授業はわずか1か月余りであったが、すでにネット環境が整っていたため、配布資料は授業を行う前にネットにアップしておいた。これにより、事前にスライドをダウンロードでき、かつ繰り返し参照できたと考えている。最初にシラバスにより授業の進め方、注意点などを説明した。対面授業時には私語を禁止した。各授業の最初にその回の授業の到達目標と範囲を説明した。各回の授業の終わりに、その回に学習単語の整理ノートへの記入を行わせた。授業の終わりに質問を受け入れ、数回以上のやり取りが可能だった。文字で意見を書いてきた学生もいた。1限目の授業だったが、出席率はきわめて良かった。例年のことであるが、試験は国家試験に沿って、かつ、新しい情報が含まれるものにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績は最高93点、最低60点、平均77点（±8.5）であった。ヒストグラムも6段階で72点から78点のところピークになり、正規分布であった。このことから、試験問題の内容は妥当であり、学生の理解度はほぼ達成されたと考える。担当教員への意見で、一人だけ試験が難しすぎたと意見を述べた学生がいたが、他はほぼすべて肯定的な意見であった。試験は易しくするほうが良いとは考えないので、講義時にわかりやすくする努力が必要と考えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の受講動機にて、関心のある内容であるが50%を超えており、将来の仕事に結び付けて考えている学生が多いことが想像できた。また、必修科目である、資格取得に必要である、GPAを上げるなどの動機を上げた学生も多人数いた。さらに、到達度の自己評価は、ほぼ4点を超えており、自由意見の記述を見ると、予習復習を行った、先生に質問をした、国家試験の問題を解いた、ノートを作った、ネットで調べた、単語の暗記をした、教科書を読んだなど、学習の様子がよく想像できた。このようなことから、DP、CP、カリキュラムマップの内容に合致していると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	疾病は無限にあり、教科書には頻度の高いもののほか、重篤なものが掲載されているが、あまりにも多くの事実を講義しすぎて学生に拒絶される可能性もある。従って、病気の詳細を可能な限りわかりやすく講義することが重要となる。そのため、実際の症例や、画像や統計グラフなどを目で見えるように呈示することを心がけてきた。これらは有効なようで、学生の自由意見を見ると、事例の紹介がよかった、役立った、教科書に載っていない写真が出た、楽しかったなどの意見があった。期末試験も重要な疾患を網羅し、良い結果を得たと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	疾病の内容の多様性、きわめて多くの医学用語を学習させなければならなかったが、かなり良い結果を得たと考えている。さらなる広さと深さの学習をいかに自発的に行うよう促すかが課題である。授業の質評価にて、唯一、質問受け入れと回答の機会が中央値より低かったので、遠隔であったとはいえ今後の講義では留意すべきであるとする。ただ、93%の学生が授業の記録を配布資料に行ったと回答しており、この資料は学生にとっての宝物となっていると考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅱは、前期科目の疾病学各論Ⅰに引き続くもので、内科疾患（腎臓疾患、血液疾患）、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、小児科と精神科は専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が96%と大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答も約20%で例年より多く、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は83点（最高95点、最低58点）でした。半数以上の学生が理想的レベル（80点以上）に到達していました。内科、小児科、精神科の平均点に大きな差はありませんでした。皆さんが満遍なく勉強した表れだと思います。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。この内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。「疾病学各論Ⅱ」は1年次の「看護形態機能学」「医学総論」、2年次前期の「疾病学各論Ⅰ」「薬理学」で学んだ知識に基づいて、同時期に開講する「看護のための臨床検査」と連動して授業を行います。試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「わりにそうだと思う」以上の評価を得ています。学生参加に関しては、遠隔授業であったこともあり他項目に比較すると評価が低いです。今後の改善点と考えます。 自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。以前に改善要求が多かった精神科に関しても、講師が変更したこともあり否定的な意見はありませんでした。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは半数以上で、昨年より増加しています。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現在の臨床現場で、検査は診断の確定、重症度の判定、治療効果の評価など、様々な場面で重要な役割を果たしています。看護師が自分で検査を行うこともあります。検査データから患者さんの病態を把握することは、看護を行うために不可欠です。看護師国家試験にも検査に関する問題は出題されます。 本科目では、血液検査や尿検査だけでなく、画像検査や生理検査など幅広い内容を対象としています。主要な検査項目の意味やデータの解析を説明するだけでなく、疑似症例の検査データを提示して、そこから病態を把握する方法を解説しました。 遠隔授業のため、心電図、肺機能、骨密度、検尿、血液型測定などの検査手技に関する演習は実施できませんでした。 授業評価アンケートの受講動機をみると、全員が「必修科目である」ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」も約2割あります。本科目の内容が看護業務に直結することを、学生さんは理解してくれたものと期待しています。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験、課題レポート、授業貢献度を加味した最終成績の平均値は68点（最高97点、最低37点）でした。秀理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の23%でした。期末試験に教科書の持ち込みを許可し、教科書を見ながら提示された検査データを解析して患者の病態を把握する問題を中心に出题しました。知識理解だけでなく、思考判断の力を評価する問題になったと考えています。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が多数ですが、例年より評価が低いです。演習が行えなかったことも原因でしょうが、私の反省点です。コミュニケーションや表現力に関する評価がやや低いのは、座学が中心の授業ですのでやむおえないところもありますが、今後の課題にしたいと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など	本科目は、看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。臨床検査に関する知識や検査データから病態を把握する力は、今後の看護科目の学びや将来の看護師業務に必要不可欠です。 1年次から受講してきた「看護形態機能学」「疾病学総論」「疾病学各論」「薬理学」などの知識をもとにして、検査結果の解析をとおして臨床応用力を身に付けることができたと思います。 成績結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「ままそうだと思う」以上の評価を得ていますが、学生参加の項目の評価が低いのが私の反省点です。今後の課題にしたいと思います。 DVDを使った授業や患者データによる病態把握の説明は肯定的な意見が多かったです。次年度も方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を複数回行っているひとや、図書館を利用して勉強したひとは半数未満でした。 もっと興味を持って貰えるように工夫したいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、ほぼ全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 試験は例年と同様に教科書の持ち込みを許可し、検査データを解析して病態を把握する問題を中心に出題しました。学生さんの知識だけでなく、思考・判断の力を評価することが出来たと思います。試験結果をみると、思考・判断の力がやや弱点であると感じました。これからの大学生活で、目の前のデータから物事を考える力を身につけていって欲しいと期待します。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保険統計学は、人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行おうとする社会医学の基礎です。臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing (根拠に基づいた看護) を行ううえで保健統計学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも保健統計学に関する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計(改訂3版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の前半は前回の復習にあてるようにしました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、全員が「必修科目である」ですが、約半数に「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験、課題レポート、授業貢献度から評価した最終成績は平均値81点(最高値100点、最低点53点)でした。理想的レベル(80点以上)に到達したひとが63%でした。学生間で成績のばらつきはありましたが、大多数の学生さんが最終的に標準レベルに到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、多くの項目で「まあまあそうだと思う」以上の評価でした。 皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する授業、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は（遠隔授業が中心であったにもかかわらず）平均値4.4と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれていたと考えます。 ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目が低いのは例年の課題ですが、知識を教授する内容がメインですので、なかなか難しいです。 自由記載では肯定的な意見が多かったです。基本的には現在の授業スタイルを継続したいと思います。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生が約半数でした。また、遠隔授業のためか、ネットを利用して勉強したひとが例年より多かったです。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 看護学科の1年生にとっては馴染みのない分野であったにもかかわらず、全員が頑張って勉強されたと思います。 今後は、学生さんがもっと興味を持って積極的に参加できる授業にすることが課題と考えています。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障概説	1	後期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生を柱として、保健・医療・福祉の諸制度や法的根拠を解説している。中学・高校で学んだ「公民」の内容が基盤であるが、看護学科の学生は法律や法律用語にかなりの苦手意識がある。今回、授業評価を見ると、「必修科目である」が97.7%であるものの、「関心のある内容である」が29.1%（昨年度3.5%）あったことは、苦手の中でも看護に必要な知識であることを意識されていたのだと感じた。 テキストを購入しているが、専門書であるため初めは敬遠されている。そのため、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説した。そして、プリントやスライドには教科書のページ数を記載して、復習できるようにした。 当初、対面授業の予定であったが、学内での新型コロナウイルス感染の陽性者が確認されたことから、途中で遠隔授業に変更された。学生は、授業方法の変更に伴い、資料の準備や課題作成や提出の変更に對して準備と対応をしなければならず、大変だったと思う。そのような中で、例年と同じく講義の欠席がほとんどなく講義に出席して、呼びかけに応じて反応してくれるなど、集中力を保ってくれたことに感謝したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今回の講義は遠隔リモートで実施され、通信環境の事情等から、学生はカメラをOFFにして授業を受けた。そのため、授業中の学生の状況がわからず、講義内容が理解できたか否か確認できないまま進んだ。しかし、授業評価アンケートの到達度自己評価の結果では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」の平均が4.4点、「学ぼうとしている学問分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」の平均点が4.4点と、高い点数であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」の平均点は3.5点と低いものの、そのほかの到達度自己評価の平均点はすべて4点を超えていた。 授業評価アンケートの「学習量の評価」では、授業の記録を配布資料に書き込んだりノートを作成した学生が全体の95%、さらに課題以外の学習に取り組んだ学生が全体の62%あったことは、学生が積極的に取り組んでくれた状況がわかる。 最終的な成績は、平均点82.2点（昨年76.9点）であった。成績の内訳は、秀 10名（昨年11名）、優 59名（昨年29名）、良 28名（昨年32名）、可 8名（昨年23名であった。昨年は対面でのペーパーテスト、今年度はリモートでの持ち込み可の試験問題であったため単純には比較できないが、自己評価だけでなく習熟度が高いことがわかる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践の基盤に位置付けられている。しかし、1年生の科目で健康や疾患を取り扱う科目でないことから、これまで看護専門科目であることを意識できない学生が多いように思われた。そのため、社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、を「知識・理解」を得るために解説し、患者を想定した事例を通して「思考・判断」をしていく授業展開にしていた。そのことは、法律の知識が看護にどう使うか、それを知らなければ患者にどう悪影響があるかがわかる仕掛けである。学生から、授業最後のコメントで、「将来の家族や友人に助言するために学習する」「患者さんのために学習する」といった感想が聞かれた。授業評価アンケートの到達度自己評価でも、一見関係が遠いと思われる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が平均点4.3点と高かったことは、これまでと違うところである。これは前述した受講動機の「関心のある内容である」に関連しているのかもしれない。 看護師国家試験において、関係法規については一定数の問題が出題されている。そこで、実際の国家試験問題を紹介し、「国家試験にはこう出る」という練習問題を実施し解説していった。これらの問題に関して、学生の関心は高かったように感じた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義では、社会保障全般にわたって紹介する。そのため、看護教員だけでなく現職の社会福祉士・精神保健福祉士の外部講師から助力を得ている。外部講師から専門的な解説を得て、それをその後の授業で看護場面での活用事例としてミニテスト風の解説を行った。このことで学生は、制度を理解するだけでなく、患者に助言できる事が目標であることを、意識してくれた。 対面講義では、講義終了後に何人か教室の前に来て質問をしてれていた。しかし、途中から遠隔リモートになりその機会がなくなったため、授業途中で1単元ごとに質問の時間をとった。また、毎回5分を残して講義を終わり、途中で質問を出来なかった学生がリモートに残って質問する時間を作った。また、毎回、出席シートに授業の感想、質問を記入してもらっており、記入された質問には、必ずコメントまたは次の授業で回答していた。授業評価アンケートの授業の質では、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の設問で、「まあまあそうだと思う」24.4%（昨年度26%）、「わりにそうだと思う」23.2%（昨年度43%）、「かなりそうだと思う」39.5%（昨年度26%）であった。一方、「少しそうではない/全くそうではない」は12.8%（昨年度5%）であった。「かなりそうだと思う」が増えているのは、遠隔授業ではチャットで質問したり顔を伏せたまま質問が出来ることから、対面授業より質問のハードルは低くなるのが要因だろう。一方、「そうではない」が昨年の倍以上に増えているのは、対面授業なら講義終了後に友人と一緒に質問に来られるが、遠隔授業は1人で聞いているために質問する内容がまとまらないまま質問できない学生が一定数いることが伺える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	法律や制度の講義でありながらも、覚える事と考える事をやっていく講義を目指した。そのためレポート課題は、調べ学習ではなく自分で課題を決めて、そのことについての考えを述べるものとした。また、常に看護師として患者に助言することを意識させて、そのために必要な最低限の知識を習得し、同時に、誰に（どこに）尋ねるかの窓口を知るように伝えた。 授業評価アンケートの結果、学生の自己評価であるが、積極的に学習し到達度も高い得点で評価している。また、リモートでの定期テストだったため持ち込みではあったが、定期テストを含めた最終評価は、過去最高得点であった。苦手意識が強い法律関係の授業であるが、看護師としてなぜ学ぶ必要があるのか、この知識が何につながるのかを、今後も意識して伝えていこうと考えている。 また、法律や制度は社会の状況によって変わる。社会の動きと制度の変更についてを意識して、常々、ニュース・報道を見たり社会調査の結果を見たりしていけるように意識づけしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床健康心理学	2	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義を受講するにあたり、すでに心理学の講義を受講し基礎知識を有している学生もいたが、本講義において初めて心理学を学ぶ学生もいた。そのため、初めて心理学の講義を受講する学生に向けて、授業の前半部においては、心理学および臨床心理学の基礎知識についての講義を実施した。また、すでに基礎知識を有している学生もいることから、心理学的基礎知識がどのように看護の場面において観察されるか、あるいは活かされるかなどの応用的な話題にも触れるよう配慮した。「受講動機」をみると、「関心のある内容である」を選択した受講生が75.5%と最も高いことから、実習や看護実践に活かそうと意欲的に受講している学生が多いことが考えられた。そのため、授業後半では事例などを適宜紹介しながら、より実践的な話題を扱うよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度の成績については、平均87.14点／100点（標準偏差 7.06点）であった。この結果から、概ねの学生が授業の内容を理解し授業目標を達成したことが考えられた。また、授業評価アンケートにおける「到達度自己評価」の「（1）自分なりの目標を達成した」に関しても、「わりにそうだと思う」「とてもそうだと思う」と回答した学生の割合（37人/49人）からも、概ねの学生が授業を理解したと感じ、目標を達成したと評価していることが示唆された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	初めて心理学の講義を受講する学生に配慮しつつ、事例などの発展的な内容に踏み込むことは、7回の授業回数では限界があった。授業内容を踏まえると、基礎的な学習を踏まえて受講できるようになると、より望ましいと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートにおける「授業の質評価」をみると、全項目において4点以上となっていたため、受講学生に成績評価の基準等が明確に伝わっていたことが示唆された。来年度も同様に、1回目の授業において、明確に成績評価等について学生に伝えるようにしたい。 また、看護学科の学生は、心理学の講義を受講する機会は限られていると考えられるため、本講義において受講生の臨床心理学的理解が深まるよう、来年度以降も今年度と同様に、学生の質問等にも答える時間を十分に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「図書館やインターネットの利用」について、「利用しなかった」が大多数であった。他の授業との負担を考慮しながらも、次回からは、授業内容に関連した推薦図書や、実習中などに振り返る材料となるような図書、教材について紹介し、学生が自発的に興味をもって学習に取り組めるよう心掛けたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は医療を担当する者にとって重要な、患者との対応を教育するものである。選択科目であるが75名（総数104名）が受講した。法律に反する場合は狭い範囲であるが、それよりもはるかに広い人道に関する医療の態度である。したがって、画像や統計グラフでは表しにくく、「自律」や「尊厳」など言葉の意味をはっきりと特徴づけ、際立てる必要があった。後期であったため、すでにネット環境が整っており、資料は授業前にアップし、あらかじめダウンロードできるようにし、繰り返し見ることができるようにした。最初に医療倫理学の歴史の変遷を講義し、変わらない価値観と、近年重要となってきた価値観を概観できるようにした。授業の進行順に極めて重要な倫理用語とその概念を、実例を提示しながら講義するように心がけた。各回の授業の終わりにレポートを書かせて提出させ、次の授業の前に、よくできたものと誤解を含むものを解説した。質問を受け入れ、数回以上の質疑応答が可能であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績は最高93点、最低1点、平均85.9点（±4.4）であった。ヒストグラムも6段階で86点から89点のところにピークがあり、正規分布をなしていた。このことから、レポートの質問は妥当であり、学生は良く理解したと考えられる。成績はレポートの回答内容によって採点し、正解を述べるものがほとんどであったため、点数が高くなっている。自由意見の中には、質問をした、図書館で倫理の本をたくさん読んだ、分かりやすかった、楽しかった、法にかかわる医療制度などを知ることができた、などがあった。ただし、対面授業の時に聞き取れないことがあったという一人の意見があった。リモートに移行した後は口元にマイクを付けたので解消したようだ。今後、大教室の時は注意が必要と考えた。、					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の受講動機として、関心のある内容である、が大多数を占め、資格取得に必要である、GPAを上げるなども多人数に選ばれていた。到達度の自己評価では、コミュニケーションや表現力を高めることができた、がやや低い値であったが、他はすべて平均を上回っていた。これは、時間が足りなかったことやリモート講義の影響もあると考える。以上のような理由から、DP、CP、カリキュラムマップの内容に合致していると考えられる。コミュニケーションや表現力を高めるためには、今後、講義中に対話時間を設けることも必要と考えた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	倫理概念を理解させるには、その歴史、倫理について書かれた本などをわかりやすく解説し、興味を持たせて学生が考察を深める必要がある。そのように意図したことに学生は良く反応し、学習量の評価では自ら学習したという項目が多数見られた。また、90点以上をとった学生が75名中13名、80-89点の学生が54名もいたことは、選択科目ではあるが、目標を達したと考えてよいと思う。学生の意見には特に回答しなければならないものは無い。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	画像で見せることの難しい倫理概念を、何とかわかりやすく教育できたと考えている。倫理に関する国家試験問題を探して解いたとか、インターネットで調べたなどを記載した学生もあり、勉強意欲を失わせなかった印象である。今後も現在の医療の実情に合わせた倫理場面を、わかりやすく講義する工夫を行っていく必要があると考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年次後期の必修科目である。学生は、1年次の看護学概論、早期看護実習、基礎看護学実習Ⅰ、2年次前期の基礎看護学実習Ⅱなどの科目を履修しているため、看護者の倫理綱領や個人情報の保護など、看護実践の場や受け持ち患者の看護をととして、看護倫理について学習する機会は得ている。2020年度は新型コロナウイルス感染症により7回の授業を計画し、対面授業を行い、途中で感染状況によってオンライン遠隔授業により実施することになった。 学生の既習の学びを確認しながら、「看護倫理に関する基礎的知識」の概説と「看護実践における倫理的課題と対応」について、事例を用いたグループ学習により、理解が深まるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、定期試験とレポート、グループ学習により採点した。平均点は84.5±5.5点であり、1名の欠席者を除き、履修者全員が合格基準に達した。学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標達成」の項目は、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」の肯定的な回答割合が95%であった。「新たな知識」「事象を理解する視点や考え方」「的確に判断する力を得る」などの項目においても、肯定的な回答割合が95%であった。また、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」については、肯定的回答割合は95%であり、講義時にこのことについて、何回か強調しておく必要がある。次に、学生の学習量の評価では、1回に30分程度以上の予習・復習をしない人は約47%であった。情報利用では、54%がシラバスを参考にしていた。大学に入構できない期間が多かったため、図書館の利用は約18%、インターネットのホームページ検索の利用は、約50%であった。学生の授業後の感想では、グループワークや他のグループの発表を聞いて、「さまざまな意見、視点があり、勉強になった、実習に活かしたい。」と意欲が見られた。看護倫理における学習目標はやや達成されたと考えられる。学生の講義への取り組み姿勢や図書館の利用、学習量については、今後も課題であり、工夫が必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、知識・理解(DP1-2「看護実践に必要な基本的知識」の修得)、態度(DP4-1「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる」)の達成を目標としている。学生の到達度自己評価および、試験、レポートなどから、看護実践に必要な看護倫理の基礎知識、倫理的課題、倫理的課題への対応などについての基礎的知識を修得できたと考えられる。また、学生はグループの事例検討で倫理的課題と対応について意見交換し、看護倫理の視点から、「今後の看護に求められる倫理」について、授業中に発表したり、課題レポートに記述することができた。カリキュラムマップにおける位置づけは看護実践の基盤であり、基礎的な段階として、内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「説明の理解しやすさ」の項目について肯定的回答割合は92%であった。全員の学生が理解しやすいように説明を工夫する必要がある。また、授業中に事例に基づいてグループワークを導入し、発表も導入した。学生の授業評価では、「自分の意見をまとめ、話し合う、発表するなど学生が参加する機会がつくられていた」の項目は、肯定的回答割合は96%であった。また、「事例について考え、わかりやすかった」という感想があり、複数の看護場面や、看護事例についての提示が効果があったと考えられる。今後も、全員がグループ学習に参加して自分の意見をまとめ、話し合う、発表するという認識を持てるように、事例提供を工夫することが必要である。さらに、学生の予習・復習の学習量が増えるように、学習課題についても検討することが必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今回は対面授業と、オンライン遠隔授業を行った。授業の目標は、やや達成できた。今後は、限られた授業時間の中で、オンラインによる授業も想定して、google classroom を活用して、グループワーク導入時の工夫や、事例の提供、講義時の説明をわかりやすいように工夫すること、学習課題を増やすことなどが課題である。講義の目的、グループ学習の目的を強調するなど、授業方法の改善を行うことである。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活援助技術論演習	1	後期	必修	いいえ	109

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「必修科目」であり学生に選択の余地はないものの、「資格取得に必要」(56.3%)、「関心のある内容」(50.6%)」の受講動機も高く、昨年度の選択率よりも向上しており、学生の興味や技術習得への関心がうかがえた。しかし今年度はCOVID-19の影響でいつまで対面授業ができるか不透明であったため、学生が実習等で実践する可能性が高い技術から優先的に授業を組み立てた。残念ながら全体の半分以上の単元がオンライン授業となり演習ができなくなったため、オンライン授業では可能な限り学生が技術手順とその根拠が理解できるようにすることが大切であると考え授業構成を変更した。このためまずは、レディネスへの配慮として、授業に必要な資料は可能な限り数日前にクラスルームにアップすることを心がけ、演習の代替えとして動画を活用するなどの工夫を行った。またオンライン授業であっても可能な限り看護技術の方法等が理解できるよう、授業は看護実習室から配信を行い、教員が根拠説明を行いながら、ゆっくりと1つ1つの技術を行い、この手技を携帯電話やアイパッドを用いて、PC画面上からも詳細に確認できるようズーム画像で配信し学生の理解向上に努めた。オンライン授業において最も難しい問題は音声問題で、事前調整を行っても授業時にハウリングが発生することも多く、教員は大きな声でゆっくりと話すことを心がけたが限界もあり、このため助教・助手の先生方に特に重要なことはチャットに記載してもらい対応した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	COVID-19の影響で本科目の達成度評価は、当初の予定から試験60%、レポート課題10%、排泄援助に関する看護展開10%、総合演習による看護展開10%、清潔援助(洗髪)のミニテスト5%、授業貢献度5%の総合評価に変更した。本来なら「演習」科目であるため、実技試験に25%の評価割合を課していたが、オンライン授業で学生は実技練習を行うことができなかったため、まずは知識理解と思考判断に重点を置き、また複数の単元の知識と思考を考慮して上記のように変更した。最終成績の平均値は68.69±9.21(昨年71.94±8.94)で最高86点、最低24点であった。成績の内訳も、秀0名(0%)、優11名(10%)、良44名(41%)、可52名(48%)で、再試験を受けた学生は9名(8%)で、うち不可の学生が1名であった。この再試験となった主要理由は筆記試験成績である。このため「全体」「知識理解」「思考判断」はやや達成されたという評価である考える。しかし学生による到達度自己評価は全て4以上であり、学習量の評価でも90%以上の学生は週に2～3回以上30分以上の学習を行っており学習の意欲は感じられる。また殆どの学生は授業開始5分前にはクラスルームに参加するとともに、画面を通しての質疑応答でも積極的に自身の考えを述べる努力は行っており態度としては問題なかったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護師の役割である「療養上の世話」の基本的知識と技術を学ぶ科目であり、看護実践の基本である。このため患者を生活者として捉え、個性性を考えながら愛護的に関わることが求められるが、これは抽象的で、なおかつCOVID-19の影響で実技演習ができなかった1年次の学生にとっては非常に難しい課題である。しかし学習到達度の自己評価より、学生は看護の専門分野において、課題を検討する力、的確な判断力、意欲や技術の習得、コミュニケーション力、ルール遵守、職業選択において、すべて4.1点以上の評価をしている。またCOVID-19の影響で実技の演習は殆ど行うことはできなかったものの、動画を視聴するなどの取り組みを積極的に行うとともに、「療養上の世話」に関する重要なポイントである「対象者の安全・安楽・自立を考慮した関わり」という難しい課題についても、レポートを通して真剣に考え記載できていたことから、専門科目として知識理解や思判断、態度において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業に関しては、イメージを付けやすいように「活動を援助する技術」などタイトルをつけ、活動、栄養、清潔、排泄、感染予防など日常生活行動内容を鑑み授業は構成している。授業の質評価は全て4.2以上であった。さらにオンライン授業でもあっても「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が最も高い4.5点であり、また「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」も4.4点であり、オンライン授業という制限の中でも、上記に記した教員側が工夫した内容は大多数の学生には伝わっていたと考える。音声や画像の問題に関しても自身のPCを容量と性能の高いものに自費で買い換え改善は行ったが、まだ不備な点も多かったため、このような授業体系が継続される限り事務部門にも協力を仰ぎながら改善に務める。そして可能な限り対面授業が継続されるよう感染防止対策や演習方法を今後も工夫したいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の達成度自己評価、授業の質評価は、全ての項目において4.1以上であった。成績は68.69±9.21で殆どがオンライン授業であったものの昨年度とほぼ同様の成績であり、再履修者も1名にとどまった。「説明が丁寧」「学びが深まる課題の提示だった」「演習はできなかったが詳細な説明で理解できた」「患者の安全・安楽・自立の視点の重要性が理解できた」「チャットに記載してくれたことで音声が届かなかった箇所への対応もできた」などの肯定的な自由意見も多く聞かれたことから、授業の質はある一定のレベルで担保できたと考える。音声など機器の不具合は今後も改善に努める。一部の学生からはグループワーク等に関する否定的な意見も聞かれたが、5名の教員がグループワークに参加し学生個々の参加状況を判断しながら授業貢献度に反省させている。学生には成績評価だけではなくグループワークの重要性を今後も説明していきたい。今後も社会の状況を鑑みながら、学生の学びの支援につながるような授業構成を前向きに考え授業を行っていきたいと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フィジカルアセスメント技術演習	1	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業にあたっては、毎年、以下1～5を大切と考えて授業を行っている。 1. 看護アセスメントの前提となる基礎知識の理解はもとより、看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術（バイタルサイン測定技術など）を確実に習得できるように支援する。 2. 「生きている」ための機能に係る主な器官系（呼吸器系・循環器系・消化器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 3. 「生きていく」ための機能に係る主な器官系（感覚器系・脳神経系・運動器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 4. 看護の対象を身体的、心理・社会的側面から総合的に理解することの必要性とその見方・考え方を、概説的な捉え方にはなるがわかるように支援する。 5. 演習（技術習得の過程）を通して看護者役割を演じる自己を客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度についても考える機会とし、期待される行動変容につなげられるように支援する。 今年度は、コロナ禍の影響で、前期は全て「遠隔授業」、後期「対面」での授業開始にホッとしたのも束の間、1か月後には再び全てが
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の受講動機は、まずは当該科目が「必修科目である」(100%)からである。それ以外には、「資格取得に必要」(55.0%)、「関心のある内容である」(32.0%)、「単位数を確保する」(26.0%)、「GPAをあげる」(6.0%)を挙げており、いずれも割合的には昨年度を大きく上回っていた。特に「関心のある内容」を選択した学生の割合は、昨年度(9.1%)を大きく上回っていた。他に「友人が履修している」(2.0)を選択した学生もいた。 全体的に、「遠隔」で画面を介しての授業が殆どであったため、対面授業と異なり、授業中の学生の反応は捉えにくかった。成績評価については、コロナ禍の学習環境状況を考慮し、筆記試験(60%)、実技試験(25→20%)、課題レポート(10%)及び学習貢献度（10%）による総合評価とした。成績の最終結果は、秀 4名(3.8%)、優 30名(28.6%)、良 46名(43.8%)、可 22名(21.0%)、不可(再履修者) 3名(2.9%)で、クラス平均は74.8 (SD± 10.45) 点、最高 94点、最低 45点で、全体的には昨年度の成績を3.7ポイント上回っていた。クラス全体で「標準レベル」を超えた学生が80名(76.2%)おり、「知識理解」及び「思考判断」においては、教育目標は「達成された」と判断した。「態度」については、授業中の様子から判断することは難しく、到達度自己評価の2項目「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(3.8/4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(3.9/4.0)を参考に「やや達成された」と判断した。 学習量の評価に関する自由記述では、「図書館を利用」「自分で重要事項をまとめた」「実習室で自主練習に取り組んだ」「事前に動画を					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生が当該科目が「必修科目である」(100%)こと、「資格取得に必要である」(55.0%)こと、「関心のある内容である」(32.0%)との意識をもって受講していたにもかかわらず、到達度自己評価「自分なりの目標を達成した」(平均値3.6/中央値4.0)は、例年に比べ低値であった。学部／学科の平均値(3.9/4.0)にも及ばず、学生が「自分なりの目標をもって」主体的に効果的に授業に臨んでいたかについては、「遠隔授業」で直接的な学生の反応を捉えきれなかったことから、多少の疑問は残るが、学生の自由記述より、授業の準備・習得のために、学生の殆どが、週2～3回以上1回30分以上の「予習／復習」(96.0%/97.0%)を行い、76.0%の学生が自発的学習に取り組むなど、看護の対象者の身体状態を正確に把握するための基礎知識・技術の習得に向けて、学生が「達成すべき行動目標」の達成に努力を惜しまず取り組んだ姿勢・態度を窺い知ることができたことから、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容的妥当性及び教育目標の達成度を、全体を通して「やや達成された」とした判断も妥当であると考え。また、「遠隔授業」で直接的な学生の反応は捉えきれなかったものの、「図書館を利用」したり、「自主学習／自主練習」に取り組んだり、成績評価の結果が昨年度を4ポイント近く上回っていたこと、標準レベル以上の学生が全体の76.2%を占めていたことなどから、DP4「態度」を「やや達成された」とした判断も妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1年次生105名を対象に、当初、看護の対象者の身体状態を把握するためのスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）、「生きていく」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系、「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系、運動器（筋・骨格）系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目標に、講義・デモンストレーション・技術演習・実技試験の流れで1単位 30時間（2コマ連続 8回）の授業を予定していたが、後期開始後僅か1ヵ月で「対面授業」から「遠隔授業」に切り替わることになり、本授業の中核をなす「演習」に関しては、大幅な予定変更を余儀なくされ、日程を含め、授業構成そのものを大きく変更せざるを得なかった。唯一「バイタルサイン測定技術」の実技試験については、不測の事態を考慮して例年より1ヵ月早い10月末に計画していたことで本試験の実施には至ったが、COVID-19感染拡大防止策を徹底する中での技術指導は、学生数を4分割(26～28名ずつに)し、複数回にわたって技術演習を指導しなければならないこと、学生の自主練習についても、自主練習時間・場所（実習室）の確保に始まり、使用物品の準備・片付け・終了後の消毒等、学生の技術習得を支援する教員側の態勢整備を含めて、これまでより以上に様々な工夫ときめ細かな配慮が必要であった。一方、技術習得に向けた学生一人当たりの割り当て時間は例年の1/4程度と、かなり制限された状況にあったと言える。結果、実技本試験については、受験者105名中合格者57名（54.3%）と例年を大きく下回った。試験当日に発熱で休んだ学生も含め、残り48名の追・再試験の実施が必要となったが、本試験直後のBCP「レベル4」への引き上げに伴う学内入構禁止措置により、実技追・再試験が実施できたのは本試験
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	当該科目の成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(20%)、課題レポート(10%)及び学習貢献度（10%）による総合評価とした。成績の最終結果は、秀 4名(3.8%)、優 30名(28.6%)、良 46名(43.8%)、可 22名(21.0%)、不可(再履修者) 3名(2.9%)で、クラス平均は74.8 (SD±10.45) 点、最高 94点、最低 45点で、全体的には昨年度の成績を3.7ポイント上回っていた。クラス全体で「標準レベル」を超えた学生が80名(76.2%)おり、「知識理解」及び「思考判断」においては、教育目標は「達成された」とした。「態度」については、授業中の様子から判断することは難しく、到達度自己評価の2項目「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(3.8/4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(3.9/4.0)を参考に「やや達成された」と判断した。一方、学生の到達度自己評価は、全項目中央値：4.0/5.0に対し、平均値：3.6～4.1で、全体的に低かった。各項目別の到達度自己評価の内訳は、「自分なりの目標を達成した」(3.6/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.1/5.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(3.8/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.1/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.0/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.1/4.5)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(3.9/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(3.8/4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(3.9/4.0)、「職業選択の参考になった」(3.8/4.0)で

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	1	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生の前期必修科目である。学生の受講動機は、例年変わらず「必修科目である」ことが、99.6%を占め、ほとんどの学生の動機となっている。 例年、この事を踏まえ、第1回の授業では、シラバスによる説明で、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。初年次の学生の講義であることを踏まえ、毎時のコメントカードで得られた学習内容への質問・意見等は次の講義冒頭に還元し、学習内容の理解に努めた。今年度は、5回目以降遠隔となり、学生と教員の双方向コミュニケーションを心掛け、全員に対し、毎回コメントについて、返信し、授業成果を個別に共有することに努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.0点であり、再試対象者は0名であった。標準的レベルに達した学生が100.0%であった。内、理想的レベルに達した者は47.1%と、約5割の学生が達成した。 目標別にみると、知識理解に関しては75.0%、思考判断に関しては75.0%、意欲・関心に関しては86.0%であった。 学生による授業評価においては、到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」が4.4と受講動機における関心の低さに比べ、講義後、公衆衛生看護に対する関心を示す成果が見られた。学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。 授業の質評価の項目においては、いずれも4.1～4.3を示している。全員に対する授業成果の個別の共有が学生の学修の自己肯定感につながったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、2018年度3.5から3.9、2019年度3.9～4.2、2020年度4.1～4.3と改善している。対象学生は違うため一概には判断できないが、1年生であることを踏まえ、理解しやすい授業を構成することと、学生の主体的参加への試みが少しずつ改善していることが伺える、最終的に目標達成のための成果として、得点の上昇は確認できる。 教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。 受講動機から授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を継続的に目指したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉えがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置づけられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護者の視点は、基盤となる科目である、 1年生である科目となり、2年目となるが、本年度も特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、92.5%が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達した。加えて「理解しづらさ」を感じた学生が0%であることは、学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育課程においては「看護の基本」に位置づけられている本科目の役割は、果たすために、受講学生全員の達成状況を上げることと、そのためには学生自身が主体的学習者として、関心をもち、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善をさらに図っていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が3年生の講義につながっていることを自覚し講義に臨めるように、関連づけて講義内容を説明してきた。 講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、講義資料を前もって配布し、予習に活用し、準備を整えて学習に臨める環境を整えた。また、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図を使用したり、配布資料だけでなくDVDなどの視聴覚教材や模型などを活用し、学生が妊産褥婦、新生児の生理的変化をイメージ化できるよう工夫した。 さらに、配布資料に教科書や参考文献のページを示し、講義後でも復習に取り組みやすくなることを意図した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は73点であった。理想的レベルを概ね60点以上として試験を作成し、再試対象は15名であった。再試受験者はほぼ全員が標準レベルに達した。 目標別にみると、知識理解75%・思考判断71%・関心意欲76%であり、全て標準レベルを上回っていた。試験では、重要な言葉やデータ基準については記述式としたため、知識や理解が不十分である場合は正確に表現することが難しかったと考える。しかし、80点以上の学生も34%みられ、目標は、達成したと考える。 また、今期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により進行の後半からはリモート授業に変更になったもの、できる限り、視覚だけでなく体験的な学習ができるよう工夫した。学生の感想からも、興味をもって学習に取り組んでいたことが示された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、さらに、思考判断については更なる方法的に改善の余地はあるものの、3年生に向けて必要な知識はほぼ得られていると思われ内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価では、ほぼ100%の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。しかし、再試験者があったことや40%ほどの学生が予習や復習をしていないと回答していることから、今後も日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるような働きかけを行っていく必要があると考える。周産期はイメージすることが難しく、学習の難しさにつながっているとも推測される。しかし、周産期のメンタルヘルス・虐待・不妊など女性を取り巻く健康問題についての関心は高くなっている。今後も学生のニーズを把握しながら、より具体的な事例や聴覚教材を活用し、修得した知識を3年生の講義につなげ活用していけるように努めていきたい。遠隔授業に関しては、上記参照。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護の実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な基本的な知識理解や思考判断は概ね達成できた。イメージが難しい反面、女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目でもある。しかし、受講動機では関心のある内容と回答した学生20%であった。それでも講義が始まると、興味をもち、意欲を持って学習に取り組んでいる姿勢も見られた。今後も学生のニーズを把握しながら身近なテーマとして取り組める教授方法を検討していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	既習の疾病学や形態機能学などを実践応用し、成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けて看護活動を展開するための科目である。本科目は2年生前期の「成人看護学概論」を基盤に系統看護学として発展し、看護実践方法について疾病学と関連させながら健康障害が生体反応として、どのように生活者に影響を及ぼすのか、健康障害のメカニズムと特徴を踏まえながら看護について思考・判断ができることを意図している。学生は看護学実習の体験も少なく、疾患と健康障害によるイメージかつきににくい状況にある。そのため疾患の理解や状況に応じた看護の方向性について、病態や症状のメカニズムを具体的に説明を加えながら授業をすすめた。授業形態が遠隔授業となり学生には毎回、授業の学びや気づき、質問を記載してもらいフィードバックを心掛けた。また、科目の対象範囲が広いと、単元ごとの評価を行い、学生の到達度を確認しながら展開した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価は平均点75.5点で昨年度より6点上回った。最高点は96点であり、理想とするレベル(概ね80点以上)には30.8%が到達できた。再試対象者はいなかった。到達度自己評価においては平均3.7～4.3であった。授業評価では「まあまあ理解しやすいものであった」が96.4%と昨年と同様に肯定的評価をしている。主体的学習姿勢においてはあらかじめ授業計画を立案したり、予習や復習に時間については昨年より少し改善したもの、32.5%が全くしていない状況である。インターネット利用は65.1%あったが、図書館の利用については75.9%が未使用であった。COVID-19の影響により学習時間の確保が15%程度上昇した一方、情報においては限られた環境となり、情報獲得の量や質にも影響が見受けられた。コロナ禍という環境においても主体的学修が深まるよう検討を行う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は成人期にある慢性疾患を抱えている対象に対する看護実践の応用として専門教育科目に位置づけられている。必須科目であり、既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と対象に応じた看護支援の基本的な考え方など具現化でき、そして看護実践に向け、理解が深まることを求めている。受講動機では資格取得に必要と答えた学生は18%(15人)で、興味関心があると答えた学生は8.4%(7人)であった。3年次に開始される各看護学実習の展開においては基盤となる科目であり、内容や位置づけは妥当と言える。 ②DP,行動目標からみた内容の妥当性 本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOLを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は77%、「思考・判断」が68.7%であった。「思考・判断」の基盤となる知識の定着と、実践応用に向けた「アセスメント力」について継続的に強化していくことが課題である。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないが、学生の知識、思考・判断力の育成を継続的に行って行く必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	事象を関連づけながら講義を進めるが、「自身で考えたことから導き出す」という段階が辿れるように時間を確保すること、学生の主体性を促し、「討議」できるような共同学習のあり方とそれに結び付くような学習教材、また学習課題の提示等、一連の課題ついて検討を加えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は2年次の前期科目である「成人看護学概論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。看護実践能力の中でも思考・判断が必要とされるため主体的学習姿勢が継続的できるように、また思考の方向性を確認しながら時間を確保し、コロナ禍においても演習のあり方を考慮する等の授業の展開(構築) について改善を図りたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」18.1%、「関心のある内容である」8.4%で、関心のある内容であると回答する学生が少ないことが分かる。 ②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるように質問をしながら講義展開を行っている。 ③今年度より事例を用いて、講義展開を取り入れた。手術により切除することでおこる機能障害の理解および看護を思考するように組み立てた。 ③講義では、周手術期の看護をイメージさせるために、手術室のDVDや呼吸訓練器具、ドレーンなど臨床で使用しているものを用いて学生が理解できるように工夫を加えた。特に3年次の演習での利活用を意識して、栄養評価、水分出納バランスの計算や簡単な事例で看護展開を一部取り入れ、思考するような展開とした。7回目より遠隔授業となったため、Wi-Fi環境を考慮して、休憩を入れるなどした。 ④2名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、課題内容を3年次
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目の登録者は92名であった。本試験未受験者1名を除いた91名の成績の平均値は、74.6（±8.8）昨年度73.2で上昇した。本試の判定では、A判定（90+）3名、B判定（80-89）27名と昨年度の20名比べて増加していた。C判定（70-79）42名、D判定（60-69）14名、E判定（59-）5名であった。5名の再試験者の内、3名は再試験にて履修したが、2名は未履修であった。標準的レベル（70点以上）に達した学生は79.1%（昨年度75.3%）、理想的レベルに達した学生は33.0%（昨年度22.7%）であった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識理解）は29.6/40点で得点率73.9（昨年77.0%）、DP2-1（思考判断）は、35.4/55点で64.3%（昨年度66.3%）と昨年度より低下していた、DP3-1（関心意欲）は4.8/5点（0-5点）で95.7%（86.6%）であった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するのは難しいようである。 ③学生の「到達度自己評価」の平均値は4.1（3.7-4.2）であった。92.8～98.8%の学生は「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。1～6名の学生は「少しそうでないと思う」と回答していた。 ④授業の質評価の平均値は4.1で、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 ⑤学習量の評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、67.5%（昨年度55.9%）・67.5%（昨年度55.9%）であった。自由記述から、授業以外の課題以外に具体的に取り組んだ学習は、「復習した」「分からないことを調べた」と自主的に学習する学生もいた。しかし、予					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は成人看護学急性期看護を学び、3年次前期の成人看護学演習（成人急性期・慢性期の看護過程や技術演習）や後期からの実習に繋がる科目の位置づけとして内容は妥当である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果などから、科目内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。 ④遠隔定期試験について コロナ禍において、遠隔試験となったが、学生の意見も踏まえ、グーグルフォームを用いた試験とした。グーグルフォームを使用した試験とすることで、学生個々の時間配分での試験が可能となったと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果より、授業工夫の一定の成果が認められた。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見などをもとに検討を加える。 ②自由記述に進行が早いという意見が聞かれた。既習の知識に戻りながら講義展開を行うため時間を要している。事例を用いて栄養や水分出納の計算などを取り入れたことで時間が不足しているものと考ええる。今後は課題の工夫などを行い検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。急性期特に周手術期の看護について、系統別に講義展開をしている。そのため、範囲が広く、内容も難しいと考えられる。今後とも既習の知識を想起させながら急性期特に周手術期の看護の理解を深めるためにDVDや事例を用いながら学生がイメージできるように工夫をしていきたい。さらに3年次の演習や実習に応用できることを意識した課題を提示している。課題内容の説明方法の検討を加えていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	老年看護では、様々なツールを用いて患者の状態を評価し、ガイドラインを用いてケア方法を検討することが多く、どの単位においてもエビデンスに基づいて看護を実践し評価するという原則に沿って授業を展開した。また、栄養や排泄などの単位においても、患者の生活歴や意向、環境によって目標や手段、方法が変わってくることも特徴的であり、知識の提供と同時に必ず説明するようにし、課題についても単なる情報整理でなく思考を伴う形式とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終評価は、課題提出50%、筆記試験45%、その他5%で、定期試験のみの点数は、平均74.8点、最高50点、最低98点であった。最終評価は、平均82.6点、最低69点、最高99点であった。課題提出8回については、毎回優れた成果がある学生は、筆記試験でも高得点であった。課題は、授業で説明したことを宿題として課題に取り組み、提出後振り返りを授業で聴くという段取りとしていたが、途中授業で説明が十分でないまま課題に取り組む回もあったので、その点は難しかったのではないかと感じている。課題が多いという意見も複数があるが、資料を見て情報を分析しながら検討していくものは、そもそも暗記で実施するものではなく、課題での学修が適切だと考えるし、実際にその活動が筆記試験前に行われていることで合格できているのだと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業で毎回回答してもらっているアンケートや授業評価においても、幅広い知識が身についたと記載があることから、ある学生にとっては満足度は高いと考えるが、情報量が多く複雑な検討課題が多くなると、混乱して習得が難しい学生もいると思われ、ある程度範囲や情報量を絞っても良いのかもしれないと考える。 遠隔授業となったものの、皮膚のケア、食事のケア、排泄自立支援など実感できるような説明や教材提示ができたことは効果的であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	課題の紙での提出や、対面での筆記試験、自筆での定期試験について、事前に案内していても、何かにつけCOVID-19や自己都合に絡めた意見があった。学習意欲や対処能力が脆弱な学生と、様々なスキルを身に着け、強さを増した学生との対比を感じた。学生にとっても学習や生活環境に対するストレスは高かったと思われ、今後の成長に期待したい。科目の学修については、コロナ禍においても目標を達成できていると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	科目の学修については、コロナ禍においても目標を達成できていると考える。今後は、4年生に看護学特論が開講されるため、老年看護の発展に関する単元を移動し、方法論についてゆとりを持って講義・課題・解説などのフィードバックが行っていく予定である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100 %、次に「資格取得に必要である」が15.5%となっている。「関心のある内容である」は12.7%であった。昨年度は「関心のある内容」が3.4%だったので、関心のある人が増えた。授業内で精神看護に関心に向けて受講できるようにメンタルヘルスに関する身近な話題やDVDの視聴などを取り入れ、さらに関心が高められるように工夫した。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎科目である。精神看護は、人との関わりがケアの基本となることを理解し、精神的援助のあり方を強調した。 ③能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について振り返らせ、こころの発達について理解を図った。 ④国家試験対策の一環として、国家試験問題の解説を課題にした。 ⑤授業は対面授業が実施できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で試験のみがリモート試験となったが支障はなかった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は70.8点であった。昨年度は71.4点であり、試験内容の難易度は変わっていないため理解度は特に変わらないと思われる。再試対象は10名であった。88%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは16.5%であった。成績の内訳は、A（秀）が0%、B（優）が16.5%、C（良）が49.5%、D（可）が22.0%、不可が11.0%であった。学生の到達度自己評価は、3.6～4.0で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は4.0、思考・判断に関する項目も3.9であった。レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきている点はよかった。新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の利用率は45%で低かったのは残念であるが仕方がない。課題で忙しいという自由記述がある反面、授業の予習・復習を全くしない学生が30人近くいるので、学習の習慣化が課題となる学生が少なからず存在する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から88%の学生が標準的レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の平均は3.92であった。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.7で他の項目より低い値であったが、コロナ禍による感染防止の影響と思われる。学生の学習量は多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が42%存在するのは問題である。昨年の43%とほぼ変わらない。学生の意見として、「他教科を含め課題の量が多く、時間に余裕がない」「課題で精いっぱい」という意見が出ており、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。課題はしているが、学習時間を確保できている学生は多いとは言えず学習習慣の定着ができていない可能性がある。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。できるだけ精神疾患を持つ人やその家族の状況が想像できるように、書籍を読み感想を書くことを昨年に引き続き取り入れた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の利用が制限されたのは残念であった。精神疾患患者やその家族の心情の理解が進んだように思う。今後も事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を続けたい。昨年までは、学生の私語が多く、注意を重ねなくてはならなかったが、今年度は全員がマスクを着用していたので私語は改善されてよかった。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100%、次に「資格取得に必要である」が18.2%となっている。「関心のある内容である」は9.1%であった。関心度は昨年の1.1%と比較し上昇している。授業内で精神科看護に関心を向けて受講できるように、書籍を読んでもらっているが効果が出ているとも考えられる。本科目は実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。 ②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。 ③精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージが強調され学生に無駄に恐怖心を与えるため使用せず、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。 ④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.0点であり、昨年より5ポイント上昇し、例年と同程度に回復した。再試対象は昨年は13名であったが今年度は7名であった。91.4%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは40.4%であった。成績の内訳は、A（秀）が6.4%、B（優）が34.0%、C（良）が37.2%、D（可）が13.8%、不可が7.4%であった。昨年に比べると、A（秀）、B（優）の割合が増えており達成度が上昇している。 学生の到達度自己評価の平均は4.04でほぼ達成されたと思われる。学習量は、30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が33%存在する反面、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってくる。しかし、内容が不足している学生もあり、指導を要した。図書館の利用は65%の学生が利用したと回答している。精神関連の書籍を読む課題を出していたのもっと利用率が上がってもよいと思われるが、新型コロナウィルス感染症の影響で利用が制限されたと考えられる。国家試験に関する課題を組み入れ、ポートフォリオで整理させたことは試験対策に役立ったのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生ははじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からは、91.4%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	精神看護学概論では何をしようかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、質問も増え、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が1/3程度存在するため学習習慣が身に付いていない層が存在するため、更なる主体的な学習を期待する。授業以外の学習に取り組んでいない理由としてとして、「他の科目を含め課題が忙しく、講義内容の勉強はできなかった」という意見が多く出ているが、個人差があると考え。コロナ禍でリモート授業ではあったが、授業以外に学習に取り組んだ学生は、「知識を深めたかった」「プリントと教科書を使って復習した」「気になることは文献を使って調べた」など意欲的に学習を進めているできている。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることは引き続き課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目である。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。新型コロナウィルス感染症の影響でリモート授業になり、十分な理解が図られていない部分もあると考える。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはいけない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人の気持ちに寄り添い、看護の応用・展開につながるようにしなくてはいけないと考える。学習の基本が身につけていない学生が数名いるが、昨年より改善しているようだ。学習の習慣がついておらず、勉強の仕方がわからない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護マネジメント総論	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	COVID-19の影響で授業はオンライン形式で行った。看護マネジメントとはイメージを付けにくい無形サービスである。このため、厚生労働省に日本看護協会が出典している図や表などの具体例を可能な限り多く活用して、学生がイメージできるように看護マネジメントの意味、目的等の理解に努めるように努力した。その後、このような組織による管理運営が必要な背景である日本の医療や社会保障の問題へとつなげ、学生が最もイメージしやすい「医療安全管理（事故防止）」を具体事例に、病院組織の概要やその役割、そしてこのような組織の中の看護の役割へと授業を展開し、イメージができるように心掛け、看護マネジメントの基礎知識の修得を図った。 次にこの科目の中で、医療安全の基本知識も教授した。「医療安全」の領域は昨今の医療現場の実情を鑑み国家試験の出題数も増加傾向であり、看護管理とリンクしている箇所も多いからである。よって「看護管理」と「医療安全」の両テキストを購入してもらい学習を進めるようにした。学生からはわかりやすかったという自由記載意見もあり、オンラインではあったが、対面同様の一定の理解へとつなげることはできたのではないかと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験70%（テキスト使用可）、レポート30%による総合評価としている。最終成績の平均値は70.1±9.80点（最高94点、最低38点）で、成績の内訳は、秀3名(3%)、優14名(14%)、良36名(38%)、可33名(34%)、不可10名(10%)で、追再試験の結果1名が再履修（体調面による影響）となった。今回はオンラインでの試験であったためテキストは使用可としたが、成績は昨年度の方がよかった。しかし「秀」該当者は今回の方が3名と多かったことからテキストや授業資料を有効活用できるレベルまで学習を深めることができたかによって成績が左右されていると考える。しかし相対的には昨年度よりも平均点は低いため「全体」「知識理解」は「やや達成」と評価する。学生による授業評価では、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」(3.6)以外は4.0～4.4と高評価であった。「コミュニケーションや表現力」に関してはオンライン授業による講義形式の授業であったことが要因と考える。 思考判断を問うため「医療安全管理」の学びを活用して「感染防止管理」に関するレポート課題を提示した。レポート評価はループリック評価を活用して30点評価で行い、評価内容は事前に提示しており自己評価が可能な環境をもうけたが、平均は22.1点（73.7%）で、最高30点、最低13点と、既習の知識を活用して記述できる学生とできない学生の二極化も見えた状況であり、思考判断は「やや達成された」と評価する。意欲関心に関しては図書館の利用等も80%以上は行っており、学習量として役半数の学生が準備・復習ともに0回であったことから「やや達成された」と評価する。学生は授業には真面目に参加していたため、態度は「達成された」の評価でよいと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はカリキュラムマップ上、基礎看護学領域の履修が終了し、各領域の履修開始前後に行われる。3年次の長期各論実習を鑑み、この時期に組織等を考える看護マネジメント総論があることは位置づけとしては妥当的と考える。学習到達度の自己評価より、学生は看護の専門分野において、課題を検討する力の取得、的確な判断力、意欲や技術の習得、職業倫理やルール遵守、職業選択において4.0以上の自己評価を行っている。専門科目として知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては全項目の平均値が4.3～4.6と高評価であった。これは国の政策等や看護マネジメント、診療報酬等の理解ができるよう、テキストだけでなく、厚生労働省等の資料を可能な限りインターネットを活用して取得し説明時に使用するなどの工夫を行った結果と考える。一部の学生を除き、複数の学生からは「説明がわかりやすかった」「多くの図や表があり理解しやすかった」と自由記載があり、質評価点数からも高評価であったと推察する。このような資料を活用することで、学生は厚生労働省や日本看護協会など様々な団体の資料を検索する知識を得ることができるので、今後も活用していきたいと考える。 今回はオンライン試験であったためテキスト使用可とし、その分、国家試験問題等を参考に問題数を多くして対応したが、それでもテキスト使用可とすると学生は安心してしまい事前学習をしない傾向も見受けられたため、今後は以前のようにテキストは使用不可とし、記述等を増やし問題の厳選を図るほうが学生の知識理解や思考判断はよいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生による達成度の自己評価は、コミュニケーションや表現力というオンライン授業では困難な項目以外は、すべての項目で4.0～4.4であった。最終成績の平均値は70.1±9.80点（最高94点、最低38点）で、成績の内訳からみても昨年度よりは、学生の理解状況は二極化傾向にあると考える。ある一定の学習到達度は達成できていると考えるが、学生の知識理解レベルを考慮し、今後も授業内容を改善していく必要があると考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際保健論	2	後期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護における国際化について、インバウンド、アウトバウンド共に身近な課題となっていることを理解してもらうために、教科書の情報だけでなく、海外旅行や海外研修、留学などの経験談を写真を用いて示したり、映画やドラマの場面を紹介するなど教材選択に工夫した。 また、調べ学習として海外に目を向けるだけでなく、アイヌ文化に焦点を当て、文化的背景が人の価値観や生活に影響を及ぼしていること、国内においてもすべての人が大切にしている文化があることと看護を関連付けられるように示した。 学生は課題や遠隔授業の負担も多かったと考えられるが、授業の課題以外に具体的に取り組んだことを8名の学生が記載しており、興味や関心が高まったと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Google Classroomの剽窃チェック機能で、レポートのデータソースがわかり、あたった資料の種類やまとめ方に違いが確認できた。非常に少ない情報からレポート作成、提出をしている学生については低評価とした。共通課題と、グループ別課題の2つが主な評価対象で、グループ別課題は、民話や神話と文化との関係、世界の出産と産後ケア、深部静脈血栓症予防ケアに関する資料の翻訳、世界の病院食について、2～5人グループでパワーポイント資料をまとめプレゼンテーションを行った。すべてのグループは丹念に情報を集め、整理し、プレゼンテーションの準備を行っていたことが遠隔においても伝わってきた。プレゼンテーションの聴取にあたって、関心を持って聴くことができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	将来看護師になったときに患者の文化的背景について配慮できるか、あるいは自らが海外で看護師として活動したいと考えるかがこの科目の学生にとっての意味だと考えるが、これまでの経験や将来の展望が異なる学生が同じ授業の中で看護の国際化について学ぶことは、多様性を理解する上で意義深いと考える。 病院マップを使った外国人患者への看護対応については、イラストを用いた教材が親近感がもてるというアンケート結果が多く得られ、関連の研究資料としても初学者に対する教材提示方法の有効性についての示唆を得た。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	2つの課題を取り組むことが学生にとって過重であったかどうかかわからないが、單元ごとに何を学んだかが最終的に記憶に残らないような課題の出し方は改め、單元ごとのディスカッションテーマを明確に示し、ディスカッションや思考のプロセス、活用した知識を想起できるような展開にしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ディスカッションの時間を設けることが少なかった。遠隔授業であっても意見交換ができるような技術的な課題をクリアし、單元ごとの構造化されたディスカッション課題を提示することを検討している。また、ディスカッションの記録として、グラフィックレコーディングは言語的障壁や文化的障壁をへらすことに役立つと考えられ、次年度からスキルの一つとして取り入れたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業準備では、授業前に前週のうちに次回の授業配布資料を配布し、他科目の自己学習と学習計画を調整しながら予習に取り組めるように配慮した。 また、復習に活用し授業内容の理解を深められる動画サイトなどを準備し、授業時に紹介した。 学修準備性では、学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、24名（30名中）が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答した者が最も多く、9名（30名中）であった。課題以外の学習については、「授業でだされる課題が多く、授業以外の課題以外に取り組んでいない」と回答した学生が複数いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は83点（前年度82点）であった。 客観的評価をDP別に見ると、思考判断（DP2-2）は84%、課題発表を通しての意欲（DP3）95%・態度（DP4）90%であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであったが、到達度は82%であった。今年度は遠隔授業となり、評価対象と構成割合を変更したため、単純に前年度との比較は行っていない。 学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」4.1、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.3、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」4.1、「コミュニケーションや表現力を身につけることができた」4.3、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.3、「職業選択の参考になった」4.3であった。 学修準備性では、学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、24名（30名中）が利用していた。学習量では、「30分					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保健師課程必修科目である。受講動機をみると、前年度では「必修科目である」14.3%、「資格取得に必要である」71.4%、「関心のある内容である」32.1%、「単位数を確保する」28.6%、「GPAをあげる」3.6%、「友人が履修している」3.6%であった。学生の学修準備性では、「予習・復習」9名（30名中）が6回以上行っており最も多かった。 ①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 受講動機で最も多い「資格取得に必要な科目」にもあるように、本科目は「専門応用科目」のなかでも、「公衆衛生看護関連科目」に位置づけられており保健師課程の必修科目である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 保健師課程履修選択を希望あるいは検討している時期である。授業の質評価について、受講動機、学習達成度の自己評価の結果から、DP/CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性はあるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前年度までは、学生の授業参加を促すために、話し合いの機会や質問に答える機会を作った。しかし、今年度は対面授業は2回終了時点で遠隔授業に変更となったため、特に授業後半ではGoogle classroomの機能を駆使して、グループでの学習機会を取り入れた。 前年度は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもったか」では3.6と低かったため、学習意欲を高められるよう、授業課題を事前に提出させ、学生の理解の状況を把握してから講義資料を前日に最終修正し、当日の授業で学生の提出内容をフィードバックしながら解説を行うよう工夫した。その結果、評価は改善した。今後も継続する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	保健師課程に位置づけられる科目であり、看護師課程の基礎的知識を土台に、公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目である。DPの到達状況からみると、再試験該当者はおらず全員が達成していた。学生の自己評価では8割が目標を達成したと回答しており、客観評価と主観評価は一致していると考えられる。リモート授業では、学生への連絡内容がクラスルーム上に事績が残るため、大いに活用できた点はよかった。課題の提示や学習の範囲を口頭での説明だけでなく、クラスルームを活用し文字で確認していくことができたため、学生にも正確に伝わっていた。また、課題を提出したあと、個々にコメントを返却しやすく、学生の理解状況もメールのやりとりで把握することができ、次の授業でフィードバックできた。次年度は対面での授業を計画しているため、学生への課題提示はクラスルームを活用し、対面とクラスルームの利点を最大限に生かして授業を進めたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護師課程は選択、保健師課程は必修の科目である。保健師課程の選抜試験が2年前期終了時に実施されることから、受講動機として「資格取得に必要なである」が60.0%（昨年度58.1%）と最も多かった。「関心のある内容である」を受講動機にしてくれた学生が8人（昨年度3人）いたことは、大変うれしいことであった。公衆衛生看護は保健師の専売特許ではなく、現在は病院の看護職にも必要となる知識である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。 テキストを購入し、授業はテキストに沿って進行するが、講義資料はオリジナルプリントとスライドで解説した。そして、プリントやスライドには教科書のページ数を記載した。これは、テキストは自己の予習・復習に使い、講義ではテキストの内容を補足するものや問題提起をするものを提示する意図があった。本科目は、保健師国家試験に直接関係することから、難易度や専門性が高い講義である。学生の中には、保健師課程を希望する意欲的な人と、友人が履修するから履修した人があり、授業に対する準備性は二分していた。それでも、全員が最後まで履修した努力を賞賛したい。 当初、対面授業の予定であったが、学内での新型コロナウイルス感染の陽性者が確認されたことから、途中で遠隔授業に変更された。学生は、授業方法の変更に伴い、資料の準備や課題作成や提出の変更に対して準備と対応をしなければならず、大変だったと思う。そのような中で、例年と同じく講義の欠席がほとんどなく講義に出席して、呼びかけに応じて反応してくれるなど、集中力を保ってくれたことに感謝
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今回の講義は遠隔リモートで実施され、通信環境の事情等から、学生はカメラをOFFにして授業を受けた。そのため、授業中の学生の状況がわからず、講義内容が理解できたか否か確認できないまま進んだ。また、講義期間の途中で提出を課した学習成果物にはかなりの差があり、提出後に解説を行ったものの、個人個人が修正されたかどうかの確認が出来ないまま次々と単元を進まなければならない、教える側としても心配であった。 授業評価アンケートの到達度自己評価の結果では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」の平均が4.2点、「事象を理解する視点や考え方を得ることが出来た」の平均点が4.2点と、高い点数であった。一方、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均が3.8点「自分なりの目標を達成した」の平均点は3.9点と低いことが気になる。 授業評価アンケートの「学習量の評価」では、授業の記録を配布資料に書き込んだ学生が全体の97%だが、課題以外の学習に取り組んだ学生が全体の37%あり、自由記載でも「他の課題で忙しい」「他の科目を優先させた」とあることは、選択科目であるため看護の必修科目を優先させた結果と考える。 最終的な成績は、平均点72.7点（昨年70.1点）であった。成績の内訳は、秀3名（昨年10名）、優6名（昨年3名）、良8名（昨年15名）、可14名（昨年16名）で、「放棄」はいなかった（昨年1名）。昨年は対面でのペーパーテスト、今年度はリモートでの持ち込み可の					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、論理的な思考判断（DP2）、看護職として学び続ける意欲関心（DP3）、倫理に基づく行動と多職種連携の態度（DP4）を目指している。あらゆる年代、あらゆる健康レベルの対象から共通した健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせる支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたり、各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要である。それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。 学生は2年前期で疾病論と各看護学領域の概論を学び、2年後期で各看護学領域の方法論と同時進行であったことから、かなりの難易度だったと思う。しかし、授業評価アンケートの達成度自己評価で、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均が4.0点「職業選択の参考になった」の平均が4.2点であったことから、保健師活動についての理解は深まったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。最初にシラバスの説明をしたためか、6割以上があらかじめ授業計画を立てて臨んでくれていた（昨年は3割）。また、授業に参加するために1回30分程度の準備をしてくれた学生8割以上いた。リモート授業で解説したことを、ワークシートでまとめるようにしており、時間内で終わらなかったものが課題となっていたことも考えられるが、講義以外の時間を使って予習・復習してくれたことをうれしく思う。 地域保健活動は、対象のライフステージや健康レベルがさまざまであり、病棟の看護に比べて対象をイメージしにくい。また、病棟の看護は患者に直接看護技術を提供するが、公衆衛生では間接的な援助方法を用いるため、テクニックとして表しにくい。何に、何を、どう支援しているかをわかってもらうためには、教科書は概念的すぎるため講義の予習復習の部分に使い、解説にはオリジナルのレジメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。授業評価では、授業の記録は「配布資料に記録した」がほとんどため、ポイントを整理するためには配布資料が有効であったと考える。 昨年までの授業は、小グループでワークシートをもとにディスカッションする時間を作っていたため、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目で学生の自己評価は高く、ディスカッションに真剣に取り組んでくれていたことがわかった。今年度は、リモートでの講義だったため、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均点が3.9点と低い結果であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師資格のための学習であることから、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。 保健師過程を目指している学生と、看護師課程の学生では、意欲と行動に違いがあるように感じる。この科目が看護師課程の国家試験に出題されている事、今後の看護活動は病院完結型では出来なくなっている事、看護師に必要な知識である事、をしっかりと意識させていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科「専門教育科目」の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目と認識していた。 この科目は、養護教諭の仕事に関する専門的な科目である。専門的な知識を活用させるために、学生が参加する授業構成にしている。学生は、事前課題についてポートフォリオを作成し、それを活用して、発表や討論にいかしている。昨年度の講義内容と大きな変更点としては、対面授業から遠隔授業に変更になった点である。そのため、授業中、学生の遠隔授業の環境に確認しながら進行了た。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な学生の成績の平均値は、75.9（±8.3）点であった。GP3.0以上の学生が37.5%であった。 学生のDP目標別にみる達成度は、知識理解が73.2%、思考判断が83.9%、意欲関心85.0%であった。 学生の「到達度自己評価」は、4.0～4.4であった。 学生の知識理解の定着が課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみての内容的妥当性 養護教諭を志望する学生にとっては必修科目で、「養護概説」講義前の実施が望ましいが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみると妥当であると考えてる。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度はやや低いが、その他の発表や討論は前向きに実践し、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考えてる。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」の平均値は、4.4～4.7であった。 学生の「学習量」は、準備と復習をしていないと回答した学生がいたが、実際ポートフォリオでの課題は提出されているため、実際の行動と学生の認識は異なっていた。 学生の「情報利用」について、シラバスを活用しないと課題が提出できないが、使用していないという学生が25%いた。 学生の「図書館などの利用」について、インターネットは全員が利用し、図書も課題に雑誌を利用するようになっていたために85%の学生が利用していた。 授業の進め方としては、例年と比べて大きく変更していないが、一部の学生にとっては、課題の負担感が大きかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2年次の「専門教育科目」であり、養護教諭免許状取得に関しては必修科目である。学校保健の基礎的な知識を理解していく科目である。 養護教諭の職務に関する講義と連動させながら学校保健の知識理解を定着させられるように授業を構成している。授業内容は、大きく変更していないが、学生の到達度自己評価は、看護学科の平均値と大きな開きはみられない。今後、学生の授業進行を確認しながらさらに知識理解を深めるように進行させたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科専門科目の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生の認識は、資格取得に必要な科目であるが最も多かった。 この科目は、「学校保健」履修後が望ましいが学科のカリキュラム上、同時期に履修している。そのため、学校保健の進捗を考慮しながら養護概説の授業を進行している。事前学習を促進していくために学生にポートフォリオを作成させている。昨年度の講義内容と大きな変更点としては、対面授業から遠隔授業に変更になった点である。そのため、例年に比較して、対面で実施される演習の内容が減少した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、83.0（±6.1）点であった。学生の87.5％が「優」以上の成績であった。目標別にみる達成度は、知識理解が86.5％、思考判断が80.9％、意欲関心が80.0％で、態度が82.6％であった。 学生の「到達度自己評価」における平均値は4.3～4.6で、項目別に大きな開きはみられなかった。 学生の「学習量の評価」は、30分以上の予習に6回以上、ほとんどの学生が取り組んでいた。復習については、全く取り組んでいない学生はいなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職の養護教諭一種免許状資格に関わる科目である。看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて妥当と考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からみると、全てのDP達成度が8割を超えている。学生は、発表や演習を前向きに取り組み、ポートフォリオの作成などにも努力がみられた。学生の自己評価を含め概ね内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「情報利用」のシラバスの活用に比べ、授業への参加のための計画を立てていない学生が多かった。 「図書館の利用」について、図書やインターネット利用についてが最も多く85%活用していた。データベースについては、活用した学生が多かった。 学生の「授業の質評価」は、4.4～4.7で、項目に大きな差はみられない。 学生の「到達度自己評価」や「授業の質評価」から、授業の進行をみた場合、学生自身の満足度は低くないと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2年次の「専門教育科目」であり、教職に関係している科目でもある。成績からみた達成度、学生の「到達度自己評価」や「授業の質評価」からみれば、学生自身の満足度は低くないことがうかがえる。次年度、対面授業ができない場合、遠隔授業における演習をさらに工夫したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。 ③おそらく初めて哲学的・教育学的思考に挑むので、わかりやすい説明を心懸け、レジュメにも前年の反省点を踏まえて改訂を加えた。 ④教員に対するよくわからない非難があった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	記述式の試験であるし、内容も毎年異なるので、点数での比較は難しい。到達度及び授業の評価を見ると「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」にかなりの数字が入っているが、一方で「全くそうでない」「少しそうでない」というのが若干いる。おおむね授業は楽しんでもらったが、一部に全く理解できなかった学生がいることも確かである。しかし、それは少数なのでおおむね、学んだ実感は与えたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。今年はA 4で5頁ほどになった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	まずまずの成果を上げていると思うので、もっと改善を深めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○学科平均点75.9点（全体平均点78.1点）。秀1名（10.0%）、優3名（30.0%）、良3名（30.0%）、可3名（30.0%）、不可0名（0.0%）。SD8.7 参考：昨年度平均点79.0点。秀29.7%、優10.8%、良28.4%、可31.1%、不可0.0%。 ○昨年度と比較すると良が増加し、秀のが減少している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置付けからみた内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○視聴覚教材としてのビデオなどへの反応があったため、今後とも教材開発や利用を進めたい。 ○歴史や社会に関する知識・関心に差があるため、これを埋めるための工夫を行いたい。 ○成績対象外ではあるが中間試験を導入したことで本試験の成績が向上したと考えられる。ただし選択肢を細かい条件で判断しなければならないような設問や学習内容を踏まえた応用的な設問に対応できない学生も少なくなかった。知識をどのように応用することができるのかという例題の提示が不足していたかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○授業内容と教員としての将来像が結びつくような授業内容を工夫したい。 ○次年度は教員養成のカリキュラム改革によってシラバス内容の一部が変更される。より多様な内容を取り上げることになるため、知識が細分化されないように横のつながりを意識した授業を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。 ④オンラインの試験で前年は知識のみを問う選択式にしたが、「教育課程論」としての〈知〉には至らなかったと思い、今年は創造的契機を喚起する形式にしてみた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の成績は他学科に比して決して悪いものではなかったが、学生は納得できていないようであった。但し、試験前及び再試験前のやりとりで多くの学生と学びの質を深めることができた。 また、独自の方式の試験にしてみたので、他年度との比較はできない。到達度及び授業の評価を見ると「かなりそうだと思う」は少なく、一方で「全くそうでない」「少しそうでない」というのがそこそこいてるのが納得できていない証だろう。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	よくわからなかったとか、講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。今回はA4で9頁になった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	もう少し内容の理解をはかるように工夫したい。そのためにていねいな説明と対話に心懸けたい。試験方法については再考したい。